

スキャルピング FX プロ
プロも使う追撃シグナル
短期安全資産運用

Ver.4.0

著作権

本書「スキャルピング FX プロ プロも使う追撃シグナルで短期安全資産運用」(以下、本書)は、著作権保護法による著作物に該当します。このマニュアルを使用するにあたり、下記の注意事項に留意したものとみなします。

注意事項

本書の内容を、著者の書面による許可なく、一部または全部を、印刷物、CD・DVD など電子ファイル、ビデオ、テープレコーダ、メール、メールマガジン、ホームページ等あらゆる手段による、複製、転載、翻訳、転売(オークション含む)等を行うことを禁止します。

上記の注意事項を逸脱した場合、違約金として著者に一律 300 万円を支払うものとします。また、本書を複製や転売等の不正利用を行った場合においては、一律 1000 万円の損害賠償を支払うものとします。違法行為者は今後の無償バージョンアップやサポートにかかわる一切の契約を破棄させていただきます。但し、事前に著者が書面による許可を得た場合は、この限りではない。

免責事項

本書はあくまで売買手法を明記したものであり、利益を保証するものではありません。投資は自己責任により行うもので、本書を利用したうえで損害が発生しましても、著者は損失金額の補填および弁済その他一切責任を負わないものとします。

目次

1.	準備	4
2.	対象通貨	19
3.	時間枠	20
4.	テクニカル分析の基礎知識	21
5.	売買判断シグナル「スキャルピング」	41
	トレンド フォロー(シンプル)	43
	レンジ相場の注意点	52
	ロスカット ポイント	58
	リミット ポイント	59
6.	ケース・スタディ	65
7.	その他のセットアップ	77
	ボラティリティ・ブレイクアウト	78
	典型的なダマシ「ヘッドフェイク」	83
	反転	88
	典型的なダマシ「エクспанションなのか反転なのか」	91
	トレンド フォロー	94
	典型的なダマシ「トレンド フォローからの反転」	97
	指標トレード	98
8.	売買判断シグナル「スイング」	102
9.	心理管理	107
10.	資金管理	109
11.	最後に	112

1. 準備

今回提供する手法については基本的にチャートを見ている必要があるため、チャートを閲覧できるソフトウェアが必要です。「MetaTrader4(MT4)」というソフトか、CMS FOREXの「VT」と言うソフトを用意していただきます。特に MT4 は高性能なため、世界中のトレーダーから支持を得ています。どちらも無料で使用することができます。

MetaTrader4(MT4) : <http://www.metatrader4.com/>



CMS FOREX : <http://www.cmsfx.com/>



チャートを閲覧するには少なくともデモ口座を開く必要があります。次の MT4 か CMS FOREX のデモ口座のどちらか一つで構いません。

MT4 を使う場合

MT4 を起動し、メニューバーから「ファイル」→「データフォルダを開く」をクリック。
データフォルダが開いたら、そこに特典に含まれる 2 つのフォルダ

- ・「MQL4」
- ・「templates」

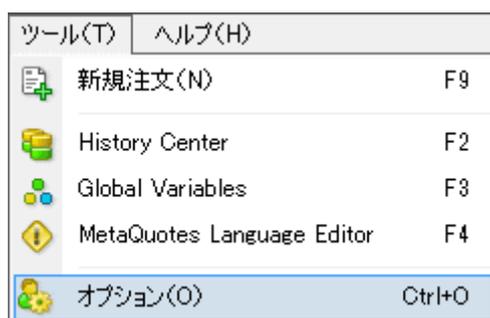
の 2 つをコピー&ペーストします。

完了したら MT4 を一度閉じて、再起動します。

その後、以下のチャートの設定方法に進みます。

ここでは USD/JPY の 10 分足を表示させることを前提に説明させていただきます。

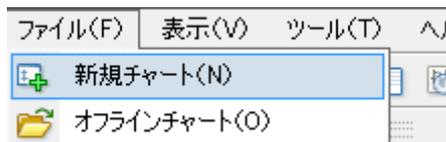
1. MT4 の上部メニューバーから「ツール」→「オプション」を開きます。



2. 「Expert Advisors」タブをクリックし、「DLL の利用を許可する」にチェックを付け、「OK」をクリックしてウインドウを閉じます。



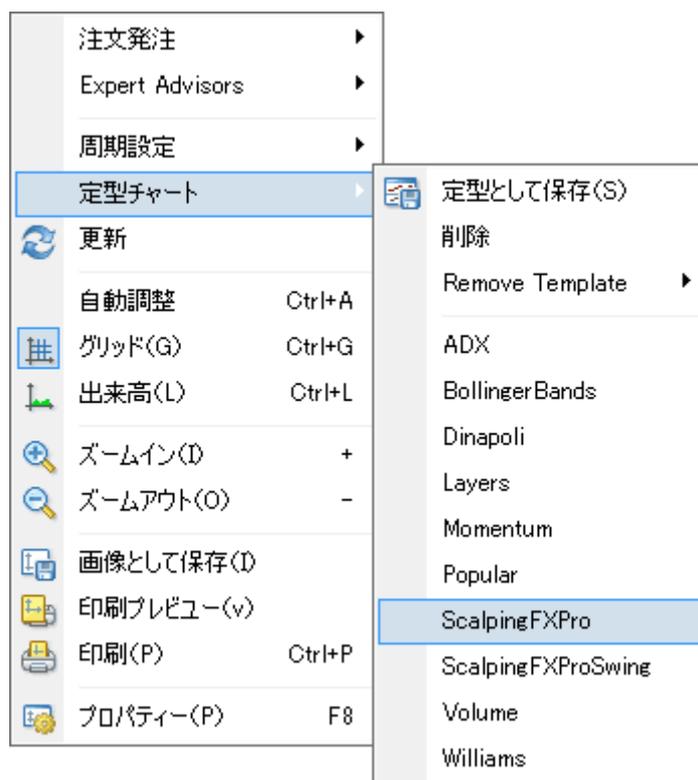
3. メニューバーから「ファイル」→「新規チャート」→「USDJPY」を開きます。



4. MT4 の上部ツールバーから「M1」をクリックし、1分足にしておきます。



5. 1分足チャートの上で右クリックし、「定型チャート」→「ScalpingFXPro」をクリックします。



6. 左サイドバーにある「ナビゲーター」→「Custom Indicators」から「Period_Converter_Opt」をチャート上にドラッグ&ドロップします。



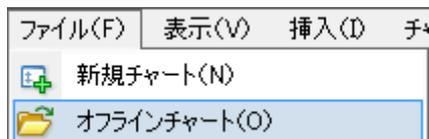
7. 「Custom Indicators」のウインドウは「OK」をクリックして閉じます。

「注意事項」

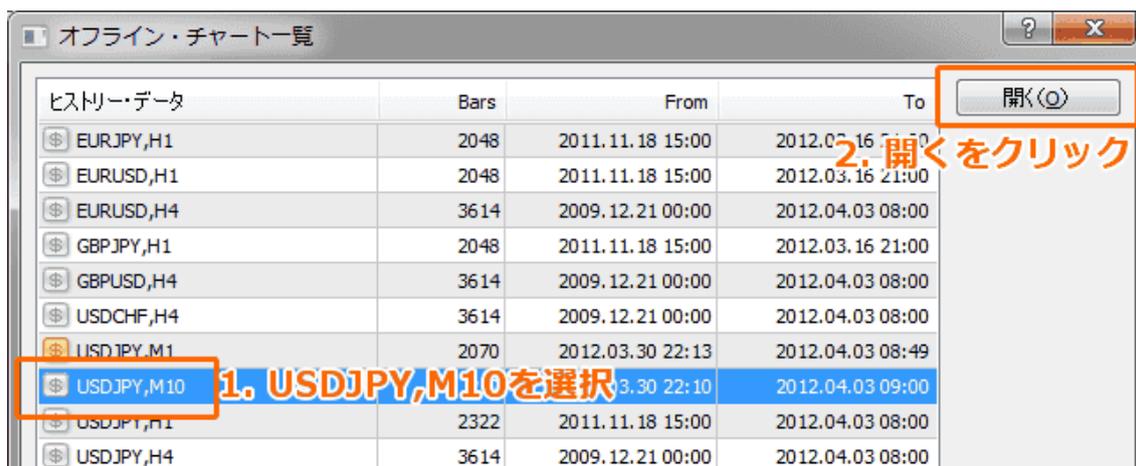
ここで設定した1分足は閉じてはいけません。

閉じてしまうと次に設定する10分足の値動きが止まってしまいます。

8. メニューバーから「ファイル」→「オフラインチャート」をクリックします。



9. 「USDJPY,M10」を選択し「開く」をクリックすると 10 分足チャートが表示されます。



10. 10 分足チャートの上で右クリックし、「定形チャート」→「ScalpingFXPro」をクリックします。

11. 最後に、1 分足チャートと 10 分足チャートの値動きが一致しているかを確認してください。一致していれば、正しく設定されています。

以後、手順 3 から好きな通貨を選ぶことで、その他の通貨を表示させることができます。

謝辞

このインディケーターの一部はご購入者様の中で、プログラミング言語に詳しい方にご協力いただきました。

[VT を使わない場合は、次へ。](#)

VT を使う場合

VT を使う場合は、まずデモ口座を開く必要があります。

CMS FOREX デモ口座の開設:

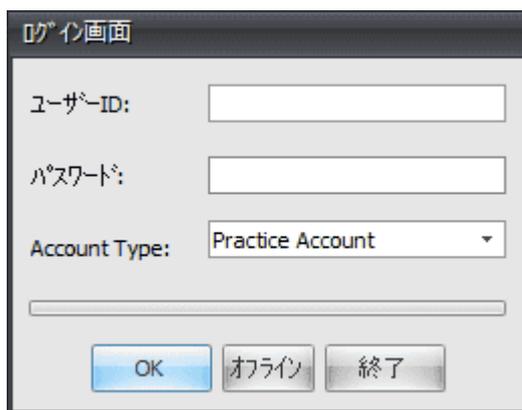
<http://www.cmsfx.com/en/my-account/open-free-practice-account/>

上記サイトで必要事項を記入し、デモ口座を開設したら、VT というチャート ソフトをダウンロードして、インストールをします。

インストールの手順は、以下のサイトを参考にしてください。

VT のインストールの手順：<http://goo.gl/dSb82>

インストールが完了したら、デスクトップにできた「VT Trader」をダブル クリックして開きます。すると以下のようなログイン画面が表示されます。



先ほど開設したデモ口座から「ユーザーID」と「パスワード」が記載されたメールが届きますので、それらを使ってログインします。

「OK」をクリックしてログインしてみましょう。

※本口座でログインされる場合は、別途「ライブ口座」を開設した際に発行される「ユーザーID」と「パスワード」でログインします。その場合は、「Account Type」の項目で、「Live Account」を選択してください。

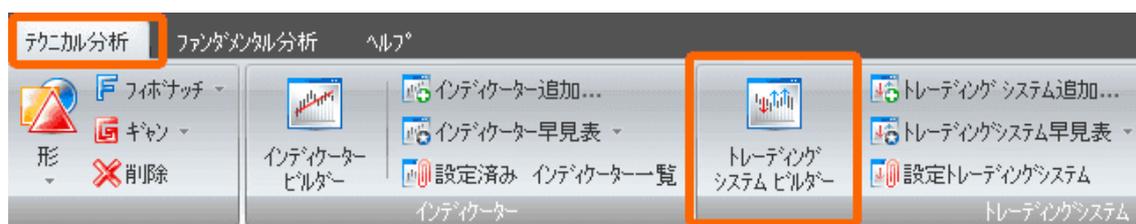
VT で使用するシステムは「この PDF ファイルと同じフォルダにある VT フォルダ」内の

- DFXScal_2(.vttrs)：スキャルピング システム
- DFXSwing_2(.vttrs)：スイング システム

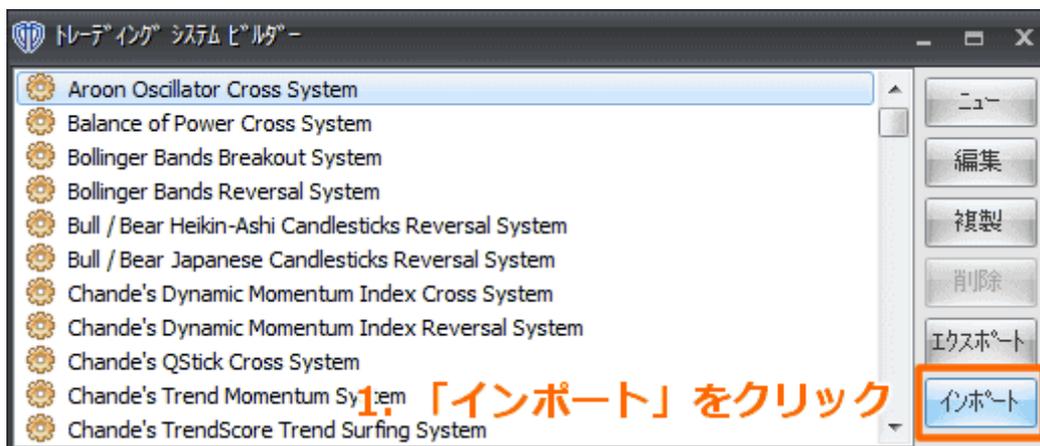
の 2 つになります。

これらのファイルは、ダブル クリックして開くものではなく、VT に組み込んで使用する「システム ファイル」です。それ以外のブローカーでは、このシステムと同様のテクニカル指標の設定(後述)を行ってください。

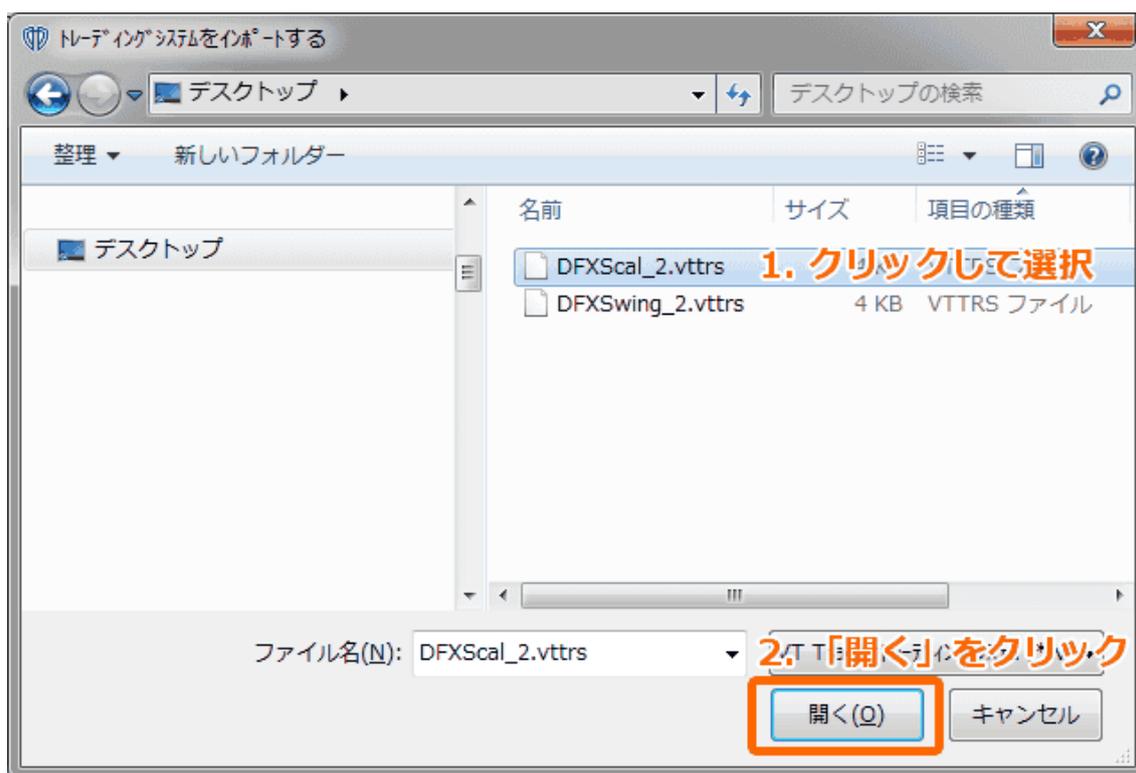
それでは、「テクニカル分析」タブをクリックし、「トレーディング システム ビルダー」をクリックします。



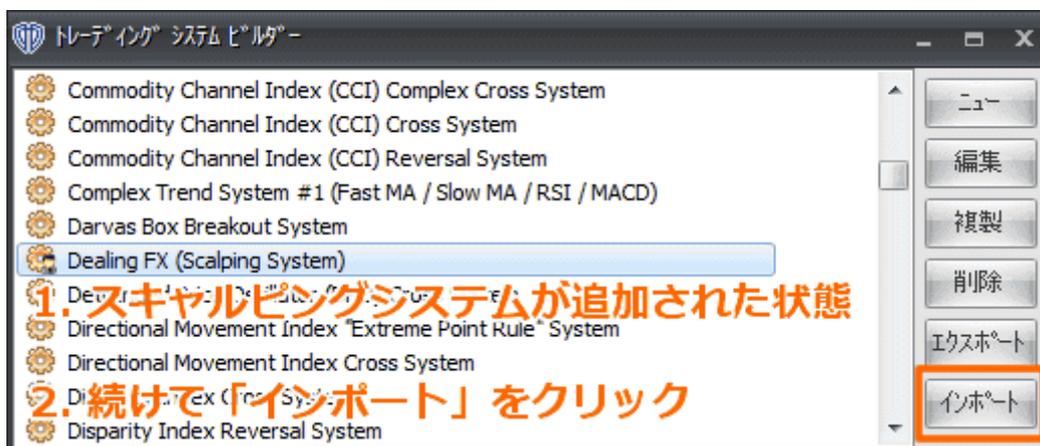
以下の画面が出てきますので、「インポート」をクリックします。



次に、ダウンロード ファイルに含まれる「DFXScal_2.vttrs」をクリックして選択した後、「開く」をクリックします。



先ほどの「トレーディング システム ビルダー」の画面に戻ります。「スキャルピング システム」が追加された状態を確認します。



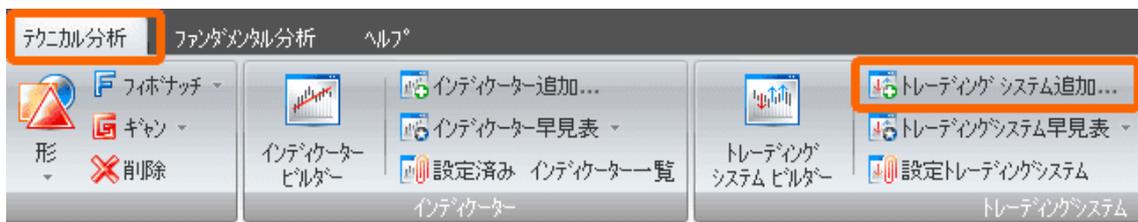
同様の手順で「インポート」をクリックし、スイング システムの「DFXSwing_2.vttrs」もインポートします。

「トレーディング システム ビルダー」の画面に戻り、スイング システムが追加されたのを確認したら、画面を閉じます。

次から、実際にチャートに表示させてみましょう。

システムを表示させたいチャートを一度クリックし、前面に表示させます。

その後、再度「テクニカル分析」タブをクリックし、今度は「トレーディング システム追加」をクリックします。



すると、先ほどインポートした

- DealingFX (Scalping System)
- DealingFX (Swing System)

が表示されますので、追加したいシステムを選択し、「追加」をクリックしします。

すると以下の画面が出ますので、そのまま「OK」をクリックします。

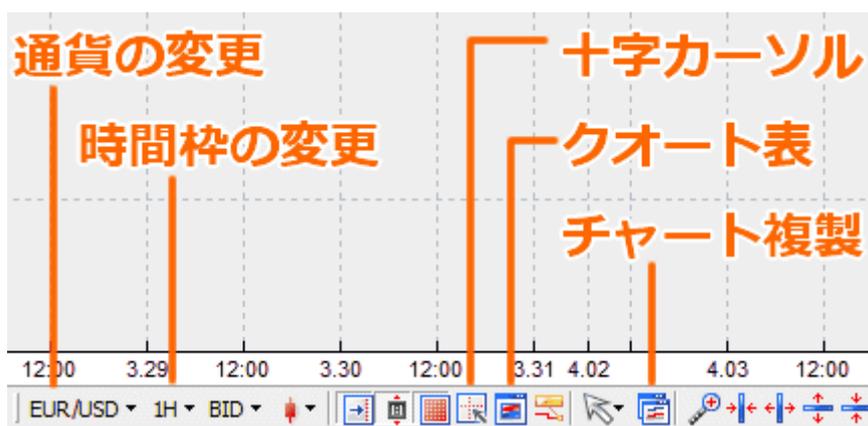


チャート上に、テクニカル指標を全て設定済みのシステムが反映されます。

チャートの下では通貨を変更したり、時間枠を変更したりすることができます。

また「十字カーソル」を表示させておくと、チャート上にマウスカーソルを持っていった時に、細かなレートと時間を把握できるので、便利です。

「クオート表」も表示させておくと、チャートの左上に売買ボタンが表示されるので、それをクリックすると、チャート上から注文することができます。

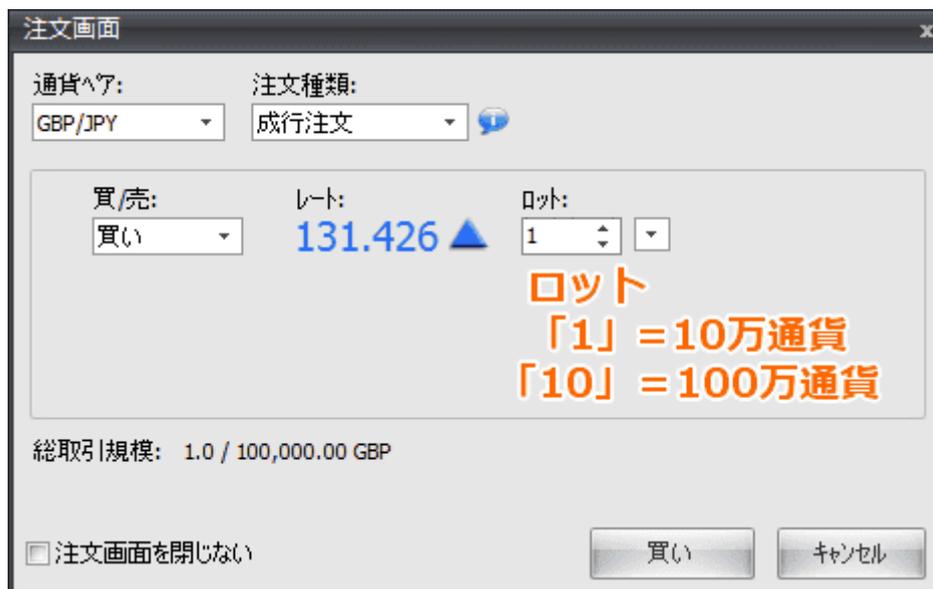


前述したシステムを設定した後、何度か「チャート複製」をクリックした後、通貨や時間枠を変更すれば、毎回新しいチャートを開くたびに、同じようなチャート設定をする手間を省くことができます。

また、私の場合、チャートを広く見やすくするため、下記のウインドウは閉じて使います。

- クオートボード
- 取引レート(詳細)
- ダウジョーンズニュース(英語)
- Market Commentaries

注文画面では、以下の確認画面が表示されます。



「ロット」は

- 1 : 10 万通貨
- 10 : 100 万通貨

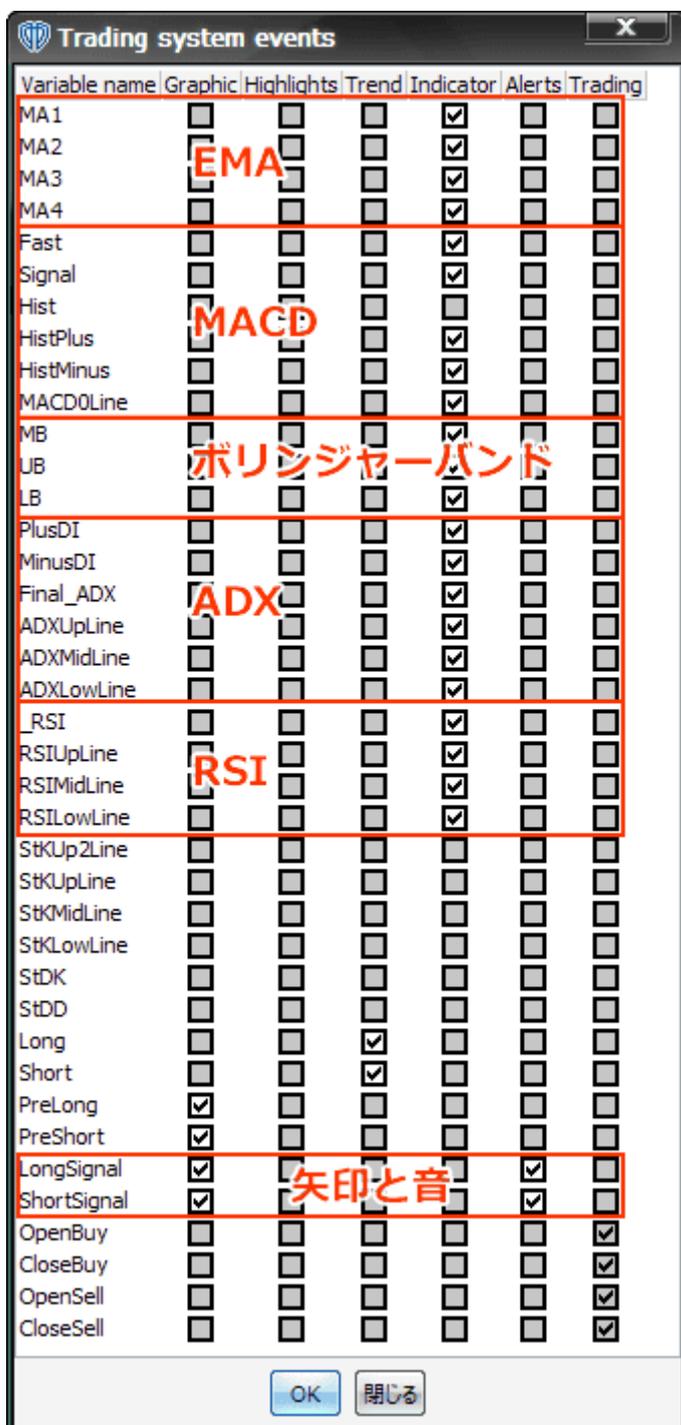
となります。初期値では、「1」の10万通貨でのトレードとなります。

「ロット」を入力後、「買い」、または「売り」をクリックするとさらに、確認画面が表示されます。正しければ、「OK」を、取り消すには「キャンセル」をクリックします。

注文が完了すると「現在のポジション」に反映されます。決済は、右クリックから「決済」をクリックします。ストップやリミットポイントもここで設定します。



特定のテクニカル指標を非表示にしたい場合は、チャート上の「Dealing FX (Scalping System)」のラベルを右クリックして、「トレーディングシステムのパラメーターをみる」をクリックします。



すると左図の画面が表示されますので、例えば、ADX を消したいのであれば、その項目の「Indicator」の欄のチェックを外した後、「OK」をクリックして画面を閉じます。

また、売買ポイントの音を消したい場合は、矢印や音の項目で「Alerts」の欄のチェックを外します。

チャート上の矢印について

システムをチャートに表示すると、順張りのエントリー シグナルとして「青い↑」と「赤い↓」が表示されます。以下のポイントを本書では「シグナル」として呼びます。

- EMA10 が EMA25 を上抜けて買い「青い↑」
- EMA10 が EMA25 を下抜けて売り「赤い↓」

また、行き過ぎた RSI と DMI を基に、直近のトレンドの天と底を捉えようとした逆張りの売買シグナルを示した黒色の小さな矢印が表示されます。この売買シグナルのロジックは、

- RSI が 25%以下、且つ MDI が 45%以上で買い「黒色の小さな↑」
- RSI が 75%以上、且つ PDI が 45%以上で売り「黒色の小さな↓」

としています。ただし、強いトレンド方向と逆のポジションを持つこととなりますので、EMA10 にレートが来たところで、素早く決済するように心掛けてください。また、順張りでエントリーしたポジションを早い段階で決済してしまいたい場合に、決済ポイントとして使う場合にも有効です。詳しいトレード方法は後述いたします。

いずれにしても、矢印通りやみくもに売買しますと精度が落ちてしまいます。ですから、あくまでシステムの示す矢印は売買ポイントの目安として考え、その他のテクニカル指標やローソク足の動きと同時に、長期、中期時間枠のトレンドをよく観察したうえで、順張り、逆張りのエントリー ポイントをうまく判断できるように、日頃から心掛けるようにしてください。

その他ブローカー、チャート ソフトについて

最近になって、下記のようなスプレッドの極端に少ない業者がたくさん出てきています。

S B I F X : <https://www.sbifxt.co.jp/>

D M M F X : <http://fx.dmm.com/fx/>

外為 オンライン : <http://www.gaitameonline.com/>

FX ブロードネット : <http://www.fxtsys.com/>

GMO クリック証券 : <https://www.click-sec.com/>

みんなの FX : <http://min-fx.jp/>

あるところではチャート機能は使いやすいが、スプレッドがわずかに大きい。あるところではチャート機能こそ弱い、スプレッドが極端に少ないなどなど、各社一長一短です。

その他にお勧めなのは、約定能力、約定スピードの高い、JFX の MATRIX TRADER があります。

JFX : <http://www.jfx.co.jp/>

2. 対象通貨

今回紹介する手法は基本的に極カスプレッドの小さい通貨に絞って売買します。従って、多くのブローカーでも、最もスプレッドの小さい、USD/JPY、EUR/JPY、EUR/USD、GBP/USD などを使います。加えて、ボラティリティの高い GBP/JPY、GBP/CHF においても有効です。

その他、経済指標時のスキャルピングにおいては、各国の通貨でトレードします。例えば、米国の指標時であれば、USD/JPY、EUR/USD、GBP/USD、英国の指標時であれば、GBP/JPY、GBP/USD、カナダの指標時であれば、CAD/JPY、USD/CAD と言った通貨に切り替えてトレードします。

また、後述するスイングにおいては、上記の通貨はもちろん、NZD/JPY、NZD/USD、AUD/JPY、AUD/USD、USD/CHF、EUR/CHF など比較的穏やかにトレンドを形成する通貨に対して有効です。

特に初心者の方は、FX というマーケットが存在する限りは、利益はいつでも得られるわけですから、まずは欲を張らずに、USD/JPY ひとつに絞り、投資資金は 10 万円まで、トレードでき得る最小取引単位で、建てるポジションは 1 枚として、売買してもいいわけです。

基本的に「稼ぐぞ」と思うのは、「損しまくるぞ」と思うのと同じです。ですから、マーケットの市場心理を読む、相場を肌で感じ取る意味で、最初から 10、20 の対象通貨を管理するのは、かなり無理があるのです。

3. 時間枠

本書のトレードでは、主に 1 分足で売買を繰り返すのですが、対象通貨の大まかなトレンドをつかむ上で重要なのが、少し長い時間足を見るわけです。勝率を上げるために、木を見て森を見ないのはいけません。

具体的には長期、中期、短期の 3 つの時間枠を用いてトレードします。基本的なそれぞれの時間枠は、

- 長期：1 時間足
- 中期：10 分足
- 短期：1 分足

となります。相場の変化の足取りが速くなるにつれて、長期、中期時間枠をそれぞれ 30 分足や 5 分足と、さらに短縮化した方がトレードしやすい場合であっても、根本的な時間枠の考え方は以下の通りです。

- 長期は、相場の全体的な見通しを立てる際に、大雑把な方向分析をする時間枠。
- 中期は、長期と相場の方向が同方向か、安全分析をする時間枠。
- 短期は、長期、中期の方向を基に、トレードを実行する時間枠。

基本は、長期の流れを基に、中期でも同方向にあるか、それとも何らかの要因によって流れが入れ替わっていないかを確認し、買いか売りで入るかを絞ります。

短期時間枠では、長期、中期の時間枠に従ってトレードを「実行」するタイミングを計るために用いますが、トレードを続けるかしないかの主な判断はしません。

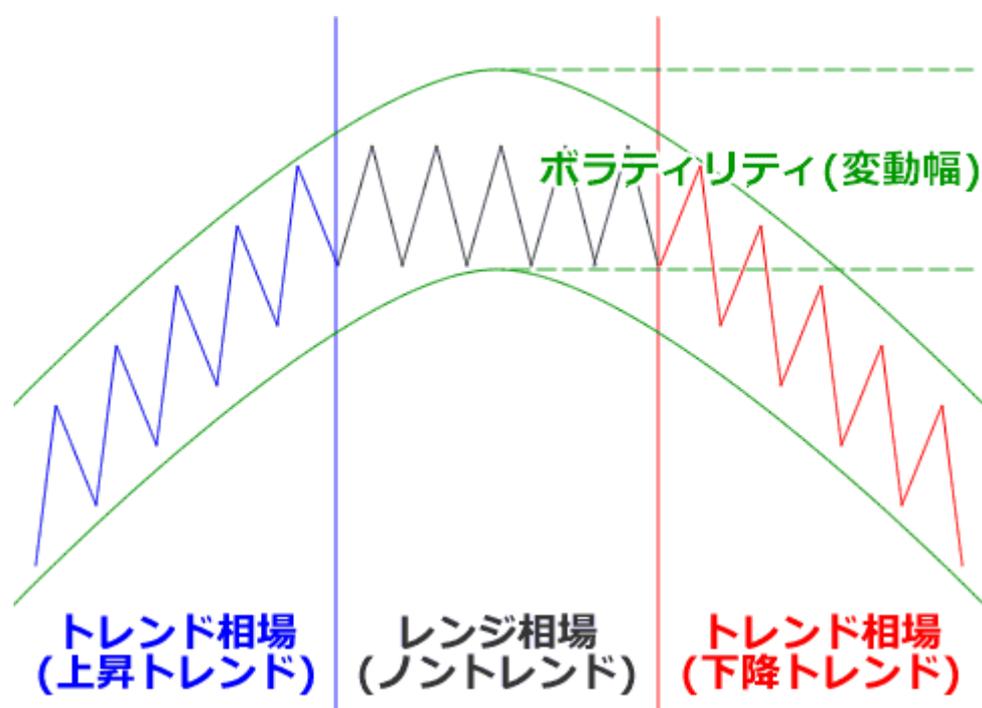
そのため、中期以上の時間枠にてトレードを続けるかしないか判断するため、トレード終了後は、視点を長期、中期の時間枠に戻し、トレードを実行に移す時に短期時間枠にてエントリーをするのが基本的な考えになります。

4. テクニカル分析の基礎知識

本書では、経済指標時を利用してトレードする場合がありますが、それだけではどこまでレートが上下するのか判断するには限界があります。そのため、テクニカル分析による指標をチャート上に表示してトレードします。一つ一つ見ていきたいと思いますが、その前に相場の流れを大雑把に把握しておきましょう。

相場の状態（トレンド相場とレンジ相場）

実際の相場はもっと複雑にレートが変動しますが、主に下図のような状態を繰り返しながら市場が形成されています。



トレンド相場とは、値動きの方向性が定まっている状態で、主に「順張り」のテクニカル指標を使用します。上昇トレンドと下降トレンドがあり、前者は「買い」でエントリーし、後者は「売り」でのエントリーが基本となります。

レンジ相場とは、値動きの方向性が定まっていない状態で、主に「逆張り」のテクニカル指標を使用します。トップで「売り」、ボトムで「買い」でのエントリーが基本となります。

また、一般的にレートの変動幅を「ボラティリティ」と言います。

順張り(トレンド フォロー)

方向性が定まっている、トレンド相場で威力を発揮します。

ただし、レート変動に対して、サインが遅延する弱点があります。またレンジ相場に入ってしまうと、頻繁にダマシのサインを出してしまう傾向があります。

主なテクニカル指標

- 移動平均線 (SMA、EMA など)

逆張り(オシレーター)

方向性が定まっていない、レンジ相場で威力を発揮します。

ただし、ひとたびレンジを抜けてトレンド相場に移行(レンジ ブレイク)すると、サインは一方方向に張り付きますので、注意が必要です。

例えば、レンジを抜けて下降トレンドに相場が移行したとすると、逆張りのテクニカル分析は、売られ過ぎのサインを出し続けます。下降のトレンド相場なのに、そろそろ買いでエントリーしようと安易な逆張りはいけません。

主なテクニカル指標

- MACD (※順張りの特徴も持ち合わせています)
- スロー ストキャスティクス
- RSI

テクニカル分析の注意点

これらのことから、相場の状態(トレンド相場なのか、レンジ相場なのか)に合わせて、順張り
と逆張りを使い分ける必要があります。

ただし、すべてのテクニカル分析は、確率的優位な方向を探るもので、レート変動の仕方
によっては、絶対的なものは残念ながらありません。

例えば、日本時間の 16 時、17 時あたりのロンドン市場が参入してくる時間帯や、21 時、
22 時あたりの NY 市場が参入してくる時間帯では、それまでの相場の状態から一変して、
トレンドが転換してくる傾向があります。また各国の経済指標(ファンダメンタル)によって、
レートが大きく変動するときは、テクニカルに関係なく、乱高下する場合があります。

どんなに多くのトレーダーが注目している有名で、勝率の高いテクニカル指標であれ、こ
れは同じことが言えますので、テクニカル指標と言っても、あらかじめ絶対的に信用でき
るものはないと認識しておく必要があります。

ローソク足

ローソク足とは、時間枠ごとの期間に値動きを把握できるように表示した図です。

例えばチャートの時間枠が

1分足であれば1分ごとに1本

1時間足であれば1時間ごとに1本

日足であれば1日ごとに1本形成されます。

その期間の初めに付いた価格を「始値」、終わりに付いた価格を「終値」

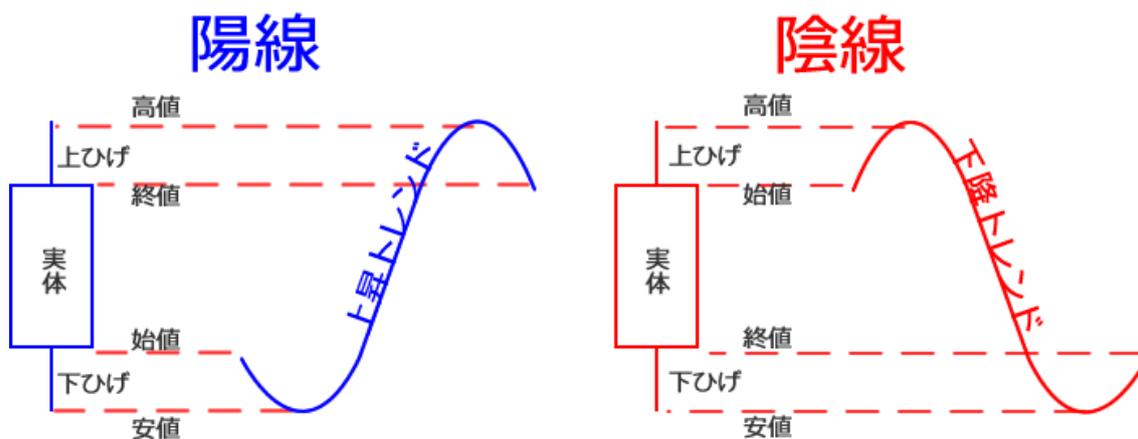
その期間に最も高く付けた価格を「高値」、最も安く付けた価格を「安値」

4つの価格「4本値」をローソクのような形状にして、チャートに並べた図のことを言います。

ローソク足には「陽線」と「陰線」があります。

陽線は始値より終値の方が高く、陰線はその逆になります。

始値と終値の間を「実体」と呼び、その上下に形成される線を「ヒゲ」と呼びます。



実体の部分が長いローソク足ほど、トレンドに勢いがありますが、陽線(上昇トレンド)、陰線(下降トレンド)であれ、それぞれヒゲの長さに注意してください。

注意点

- 陽線の場合、上ヒゲが長ければ長いほど、下降を示唆します。
- 陰線の場合、下ヒゲが長ければ長いほど、上昇を示唆します。

指数平滑移動平均線 (EMA: Exponential Moving Average)

一般にトレンド フォロー系の代表的なテクニカル指標である、単純移動平均線 (SMA : Simple Moving Average)の欠点を改善したものです。

現在のレートから一定期間のレートの終値を単純に平均化したものではなく、直近のレートに、より比重をかけた移動平均線です。

そのため、レート変動に機敏に反応し、且つ SMA よりもブレ(ダマシ)が少ないのが特徴です。後述する MACD にも EMA が採用されています。

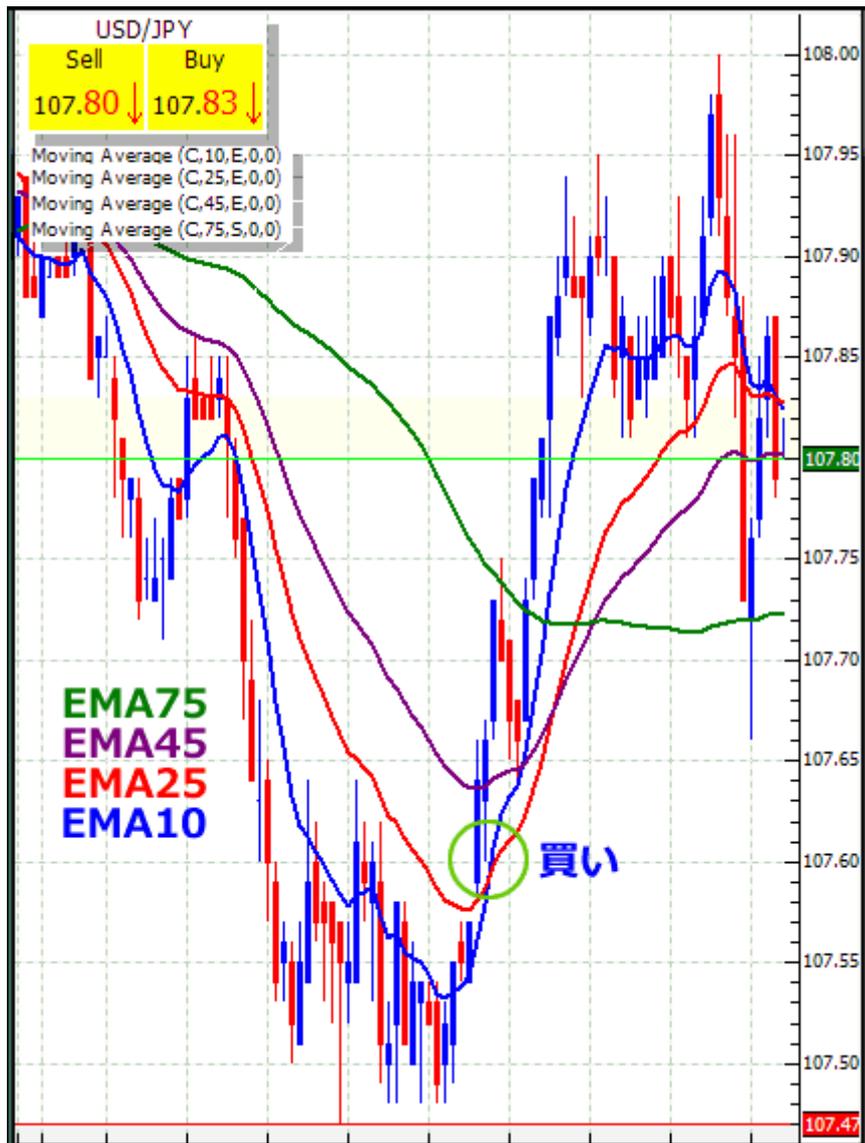
一般的な使い方として、短期 EMA が、長期 EMA を上抜け(ゴールデン クロス)したら「買い」、下抜け(デッド クロス)したら「売り」と判断します。

本書では、基本的なトレード手法に指数平滑移動平均線 10(以下 EMA10)と指数平滑移動平均線 25(以下 EMA25)のクロス ポイントを目安にトレードします。

その他に指数平滑移動平均線 45(以下 EMA45)と指数平滑移動平均線 75(以下 EMA75)を表示させます。前者は主にロスカット ポイントの目安に、後者は中期で見たトレンドが上昇にあるのか下降にあるのかを大まかに把握し、買いか売りのどちらでエントリーしていくかのフィルターとして使用します。時間足と EMA75 の関係性は以下の通りです。

- 1時間足の EMA10=10分足の EMA75
- 10分足の EMA10(=5分足の EMA25)=1分足の EMA75
- (5分足の EMA10=1分足の EMA45)

また、上(下)昇トレンドの場合、上(下)から EMA10、EMA25、EMA45、EMA75 と、それぞれの EMA が順序良く並んだ状態のことを「パーフェクト オーダー」と呼びます。多くの時間枠で、この状態にある時は順張りでトレードするのに、より適していると言えます。



このチャート例では、下降トレンドのパーフェクトオーダーからトレンドが転換して、上昇トレンドに移行したポイントです。買いでエントリーしたポイントは、あくまで理想的なポイントを示したものです。

実際には EMA10 が EMA25 を上抜けしたが、すぐにレートが下がること(ダマシ)もあります。

ですから、ローソク足がどの EMA をサポートとして機能し、トレンドが加速していくのか、はたまたレンジスタンスとして反発してくるのか、焦らずによく観察するようにします。

注意点(典型的なダマシ「デッド クロスで買い、ゴールデン クロスで売り」)

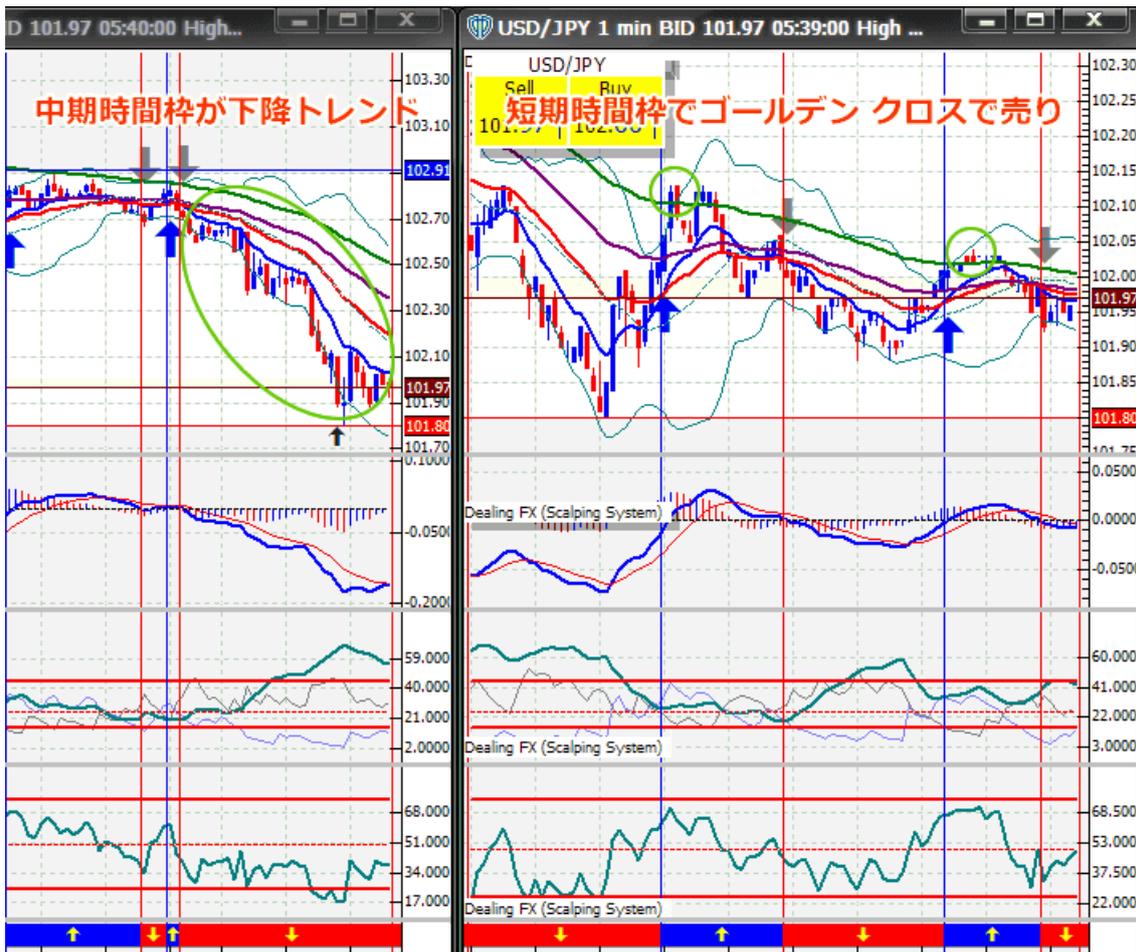
前述の通り、EMA の一般的な使い方は、ゴールデン クロスで買い、デッド クロスで売りが基本ですが、典型的なダマシは、この時買ったポイントが既に天井、売ったポイントが既に底と言うことがあり、クロスしきったところでは、シグナルが遅行するという弱点があります。

これは、相場の状況にもよって一概に決めつけられることではありませんが、主に時間枠における短期 EMA と長期 EMA の 2 本の期間の取り方に問題があり、間違った期間で売買すると、このようなダマシにあってしまうことがあります。

かと言って、時間枠ごとに異なる期間の EMA を使用して売買するのもあまり現実的ではありません。

そのため、本書では一般的な使い方とともに、長期、中期時間枠が下降トレンドであれば、短期時間枠ではゴールデン クロス確認後に売りエントリーを考えます。逆に長期、中期時間枠が上昇トレンドであれば、短期時間枠ではデッド クロス確認後に買いエントリーを考えます。

いわゆる「押し目買い」と「戻り売り」になりますが、前者は上昇トレンド中、一時的にレートが下降したポイントでエントリーするもので、後者は下降トレンド中、一時的にレートが上昇したポイントでエントリーすることを言い、長期中期のトレンド方向に、短期時間枠では逆張りの要領でエントリーするイメージです。



※左が 10 分足、右が 1 分足です。

長期、中期時間枠のトレンドには逆らわないのが基本です。上記のチャート例では、主力の時間足で売買シグナルが全く逆になってしまう例です。1分足の緑○で囲まれたポイントは後述する手法でエントリーポイントとなります。

また、EMA10 と EMA25 が複雑に絡んでいる状態や、4本のEMAが収束に向かっている時は、トレードする機会としてよくありません。安易に買いだ、売りだとエントリーすると、どちらに動くか分からないだけに含み損が少し膨らむだけで精神的に辛くなり、結局損切りするか、下手をすれば大損してしまいます。ですから、主力で使う時間足より大きな時間足で上昇なのか、下降なのかと言ったトレンドをつかむことが大切になってきます。

MACD (Moving Average Convergence Divergence)

トレンド フォローとオシレータ系の両方の性質を兼ね備えており、一般的な移動平均線よりも、トレンドの転換をいち早く察知します。多くのトレーダーが注目している優れた指標ですが、あまり使い方を知られていないのも事実です。

このテクニカル指標には、MACD とシグナルの 2 つの線があります。

MACD : 短期指数平滑移動平均(EMA12)－長期指数平滑移動平均(EMA26)

シグナル : MACD の移動平均

ヒストグラム : MACD－シグナル

一般的な使い方として、MACD がシグナルを上抜けしたら「買い」、下抜けしたら「売り」と判断します。EMA を使ったゴールデン クロスとデッド クロスの MACD 版のようなものですが、本書では、EMA でエントリーした後、主に中期時間枠での決済ポイントとして使用します。

先の EMA のクロス ポイントでエントリーしている方向と逆方向に MACD がクロスする段階では、トレンドの転換が予測されるため、決済を考えます。

- 買いポジションの時 : MACD のデッド クロスで決済。
- 売りポジションの時 : MACD のゴールデン クロスで決済。

別の使い方として、ヒストグラムを見る方法があり、0 以上になったら「買い」、0 以下になったら「売り」と判断する方法もありますが、例えば買いポジションの時、中時期時間枠のヒストグラムが赤色(売りポジションの時は、青色)になった瞬間に決済するなど、より早いトレンドの転換をとらえるために注意すると有効です。青色なら上昇トレンド、赤色なら下降トレンド。0 以上か以下は問いません。

以上が本書の主な使い方になります。



※青色の太線が MACD、赤色の線がシグナル、中心にある縦線がヒストグラムとなります。

実際のトレードでは、緑○で囲まれたポイントでトレンドの転換をとらえる(エグジットする)のが理想ですが、MACD が上昇中であってもヒストグラムが赤色の時、もしくは MACD が下降中であってもヒストグラムが青色の時は、より早いトレンドの転換をとらえることができます。

注意点

長期、中期時間枠でトレンドが出ている場合は、決済は MACD のクロスで十分ですが、レンジ相場の場合、EMA 同様クロスしきったところでは、シグナルが遅行するという弱点があります。そのため、MACD そのものの角度や傾きに注意します。

ただし、角度や傾きに裁量が入るので分かりにくい場合は、ヒストグラムの色が切り替わった時(青→赤、赤→青)か、より短い時間枠の 5 分足の MACD クロスで決済します。

トレンドが出ている場合というのは、中期時間枠でエントリーしている方向に MACD が傾いているのが確認できる状態です。そうでない場合、後述するボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ のタグ(接点)を優先させます。

また、EMA10 と MACD の方向が逆行(ダイバージェンス)している場合は、エントリーするタイミングとしてよくありません。



ボリンジャーバンド

ボリンジャーバンドは、20日の移動平均線(SMA20)のミドルバンドを中心に、上下に標準偏差 $\pm 2\sigma$ のバンドを組み合わせたものです。一般的に95%の確率で、この $\pm 2\sigma$ のバンドの中にローソク足が収まると言われています。



本書では主に順張りでエントリーした場合、目先の最少利益目標として、短期時間枠でローソク足がボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ にタグしたところを決済ポイントとします。

- 買いポジションの時：ローソク足が $+2\sigma$ にタグしたら決済。
- 売りポジションの時：ローソク足が -2σ にタグしたら決済。

逆に言うとエントリーポイントから、すでに $\pm 2\sigma$ に近接している状況や、現在のレートから $\pm 2\sigma$ までの値幅がスプレッド分程度でしかない場合、すぐにエントリーするとダマシに遭いやすくなりますので注意が必要です。



また $\pm 2\sigma$ にローソク足がタグしたポイントで、反対ポジションを取る逆張りでエントリーする場合、

- 上昇を示すテクニカル指標と -2σ のタグで買い
- 下降を示すテクニカル指標と $+2\sigma$ のタグで売り

と言った使い方をします。例えば上昇中の **EMA75** を **EMA10** が下抜けしてこない状態であれば、 -2σ のタグで買い。逆に、下降中の **EMA75** を **EMA10** が上抜けしてこない状態であれば、 $+2\sigma$ のタグで売りエントリーします。いわゆる押し目買い、戻り売りとなります。

またミドルバンドが水平となっているレンジ相場の際は後述する RSI を基に

- $+2\sigma$ とタグ、RSIが75%以上で売り
- -2σ とタグ、RSIが25%以下で買い

でトレードすることが可能です。

ボリンジャーバンドの形状にはさまざまな形状があり、 $\pm 2\sigma$ のバンド幅が収縮している状態を「スクイーズ」と言います。具体的な目安として、 $\pm 2\sigma$ のバンド幅が

- 5分足で、10pips 以内
- 10分足で、25pips 以内
- 1時間足で、60pips 以内

となってきます。ポンド絡みの通貨ですとこれより 1.5~2 倍あたり大きな値になります。このようなトレーディングレンジにある時は、エントリーポイントからのスプレッドやリワード・リスク(損益比率)を検討するとリスクの比率が高く、ダマシにも遭いやすいためトレードをしない方が安全です。



この状態では、買いと売りの圧力がせめぎ合い、 $\pm 2\sigma$ が極端に収縮し水平になる期間が続きます。この買いと売りのどちらかのバランスが崩れた時、次に示す「エクспанション」に移行します。



スクイーズの後に、上下のバンドが外側に向けて、大きく口を広げるような状態を「エクспанション」と言います。上昇トレンドの時は、下部バンドが下向きになり、下降トレンドの時は、上部バンドが上向きになります。そのバンドの向きが反転する時、トレンドの終結になります。

こうなると先ほど説明したローソク足は 95%の確率で、 $\pm 2\sigma$ のバンドの中にローソク足が収まるどころか、しばらくは反転すらせず、バンド上を滑るようにローソク足が形成されていきます。これを「バンドウォーク」と言います。

逆張りのシグナルとは異なり、 $\pm 2\sigma$ の外側に終値が付いたら、それは反転のシグナルではなく、持続のシグナルとして使われます。これは、ボリンジャーバンドの開発者、ジョン・A・ボリンジャーが推奨する順張りの使い方になります。

また、トレンドが持続している時エクспанション終了後であっても、中心のミドルバンドは、押しや戻りの役目を果たす傾向があり、トレンドに乗り遅れた場合は再エントリーする好機となります。

ADX (Average Directional Movement)

ADX(緑太線)は、トレンドの強さを、DMI(PDI(青線)と MDI(グレー線))は、トレンドの方向を示します。



※ボリンジャーバンドと組み合わせたトレード手法として紹介しますので、上図では、ボリンジャーバンドも表示させています。

一般的な使い方として、トレンドが明確に出ている時は、PlusDI(PDI)と MinusDI(MDI)の差が大きくなるのが特徴で、PDI(青線)が MDI(グレー線)を上抜けしたら、買い。MDIが PDI を上抜けしたら、売り。と言った PDI と MDI のクロスを売買ポイントとしたものがありますが、本書では扱いません。

今トレンドがどちらの方向に出ているのか、または出ていないのかを把握するために使い、ADX が 20~25%のラインを上抜けしてきたら順張りでエントリーを考えていきます。

ただし ADX そのものは、上昇トレンドなのか下降トレンドなのかと言った、トレンドの方向は示しませんので、PDI と MDI も一緒に見ていくことで、トレンドがどちらに強く出ているのかを知ることができます。

- 上昇トレンドでは、ADX と PDI が上昇。
- 下降トレンドでは、ADX と MDI が上昇。
- ノントレンドでは、ADX が下降、もしくは水平。

3本もの線がややゴチャゴチャしており、慣れないうちは見にくいのが難点ですが、一番重要なのは ADX(緑の太線)で、上昇なのか、下降なのかをみることです。

本書では、ボラティリティがほとんどない状態(スクイーズ)からのトレンドが一気に始まったブレイクアウト(エクспанション)の初動を捉える指標として、ボリンジャーバンドと同時に使うのが理想です。

また、普通にトレンドを確認するには、ADX 単体では遅行してしまう点が弱点ですが、DMI と併用し、どちらの方向にトレンドが強いのか視覚的に測るものとして使用します。

トレンドの転換ポイントは、ADX が下降し始めたポイントになります。この場合ポジションを持っていたら、決済を考えます。ポジションを持っていないければ、オシレータ系のテクニカル指標と同時に、逆張りでエントリーを考えます。

また、ADX が 25%以下で膠着している状態では、基本的にトレードを控えるシグナルとなります。

RSI (Relative Strength Index)

オシレータ系の代表的なテクニカル指標の一つです。

一般的な使い方として、RSI が 20~30%のラインを下回ると、相場は売られすぎの状態として、そろそろ反転上昇の可能性があるため、買いの判断をします。

逆に 70~80%のラインを上回ると、相場は買われすぎの状態として、そろそろ反転下降の可能性があるため、売りの判断をします。ただし、RSI が行き過ぎた水準に来たところで、すぐにポジションを取ることは非常に危険です。

例えば、相場が強い上昇トレンドになると、RSI は 75%付近をへばり付くように推移するため、単純に売りポジションを持つとダマシとなります。トレンドが出ているためへばり付くのは当たり前と考え、ほかのテクニカル指標を優先し、RSI は無視します。

本書では順張りでトレードする場合は、50%のラインを上回るか下回るかで、大きく買いか売りを判断する程度にとどめ、主に ADX が下降している中、レンジ相場と判断できる状態で、

- ボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ にローソク足がタグしたポイント。
- PDI、MDI が 45%以上に達したポイント。※

以上を RSI の行き過ぎた水準と同時に確認して、逆張りでトレードします。トレンド相場の時は、RSI そのもののテクニカル指標は基本的に無視します。

※MT4 や VT に組み込むシステムには、黒色の小さな矢印が表示されます。

(↑は、買い。↓は、売り。)順張りでエントリーした際の、利益確定としても有効です。



※ADX でトレンドがないことを確認して、RSI の過熱感とボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ にローソク足がタグしたポイントでの逆張り。

テクニカル指標の使い分けフロー チャート

テクニカル指標	上昇トレンド	下降トレンド	ノントrend	備考
ローソク足	(実体の長い)陽線	(実体の長い)陰線	実体が短い(高値と安値の差が10pips以内)	上ヒゲの長い陽線、または下ヒゲの長い陰線は反転の可能性がある
EMA	ゴールデンクロス ローソク足が EMA25 ~75 以上	デッドクロス ローソク足が EMA25 ~75 以下	EMA25 水平 EMA75 水平 全 EMA の収束	パーフェクトオーダー形成中はトレンド相場
MACD	上昇 ゴールデンクロス ヒストグラム青色	下降 デッドクロス ヒストグラム赤色	水平 シグナル線と収束	EMA10 と MACD の逆行に注意
ボリンジャーバンド	ミドルバンド上昇 エクспанション バンドウォーク	ミドルバンド下降 エクспанション バンドウォーク	ミドルバンド水平 スクイーズ ±2σ 水平	
ADX	上昇 25%以上 PDI 上昇	上昇 25%以上 MDI 上昇	下降(水平) 25%以下 (PDI,MDI 含む)	
RSI	75%以上	25%以下	50%を推移	

上昇トレンド、下降トレンド、ノントrendに応じて、色の付いた枠内のテクニカル指標を主に使い分けします。

5. 売買判断シグナル「スキャルピング」

本書の最も基本的な短期トレード手法は、1時間足と10分足のシステムが示すシグナルの方向に押し目や戻りを狙い、まさにエントリーするタイミングを1分足で計るというのが基本になります。主に使用するテクニカル指標は次の6つです。

1. **EMA10**、直近の値動き
2. **EMA25**、平均化された値動き
3. **EMA45**、ロスカットポイント
4. **EMA75**、市場の大まかなトレンド
5. **MACD 12,26,9**、トレンドの方向、決済ポイントの確認
6. **ボリンジャーバンド 20,2**、目先の決済ポイント

基本的な考え方は、まず長期時間枠で

- ローソク足が **EMA25** の上であれば上昇トレンド
 - ローソク足が **EMA25** の下であれば下降トレンド
- と大雑把に方向を確認する。

中期時間枠で **EMA10** が **EMA75** の上にあるのか下にあるのかでさらに売買する方向を絞り込みます。

- **EMA10** が **EMA75** の上であれば押し目買いスタンス
- **EMA10** が **EMA75** の下であれば戻り売りスタンス

そして短期時間枠で

- ローソク足が **EMA75**+スプレッド下抜けたところで買い
- ローソク足が **EMA75**+スプレッド上抜けたところで売りでタイミングを見極めます。

特にトレードする方向を絞り込む時間枠として、中期時間枠が大切で、短期時間枠だけを見てシグナル通りにトレードしてもダマシが頻出してしまいます。サインの取捨に多少の裁量が入ってしまうのは否めませんが、

- 長期時間枠では **EMA10** と **EMA25** が完全に密着している。
- 中期時間枠ではボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ の幅が **25pips** 以内の狭い値幅で、**EMA10** と **EMA25** が複雑に絡み合い、さらにローソク足が 2 つの EMA を行ったり来たりしている。
- 短期時間枠では **EMA75** が概ね水平になっている状態で、エントリーしても目先の決済ポイントである $\pm 2\sigma$ まで到達する値幅が **5pips** も満たない。

このような場合は極力手を出さない方が無難です。

そのため「指数平滑移動平均線 (EMA: Exponential Moving Average)」でも説明したような「押し目買い」や「戻り売り」がお勧めです。ブレイクアウトのシグナルよりもダマシが少なく、順張りでトレードするにあたって、トレンド相場に乗り遅れた場合も、再エントリーできますし、リワード・リスクの観点からも理にかなったトレードです。

トレードする時間としては、基本的に自分の都合のいい時間で構いませんが、日本時間の 17時以降から翌2時頃までが値動きが良く、最もいい結果が得られます。

トレンド フォロー(シンプル)

長期時間枠(1時間足)

まず相場の全体的な見通しを立てる際に、1時間足チャートを見て上昇トレンドなのか下降トレンドなのか大雑把な方向分析をします。

- A) 買いシグナル継続中、ローソク足が **EMA25** 以上であれば上昇トレンド。
- B) 売りシグナル継続中、ローソク足が **EMA25** 以下であれば下降トレンド。

以下のいずれかも同時に確認できると、より好都合な状態となります。

好都合な状態

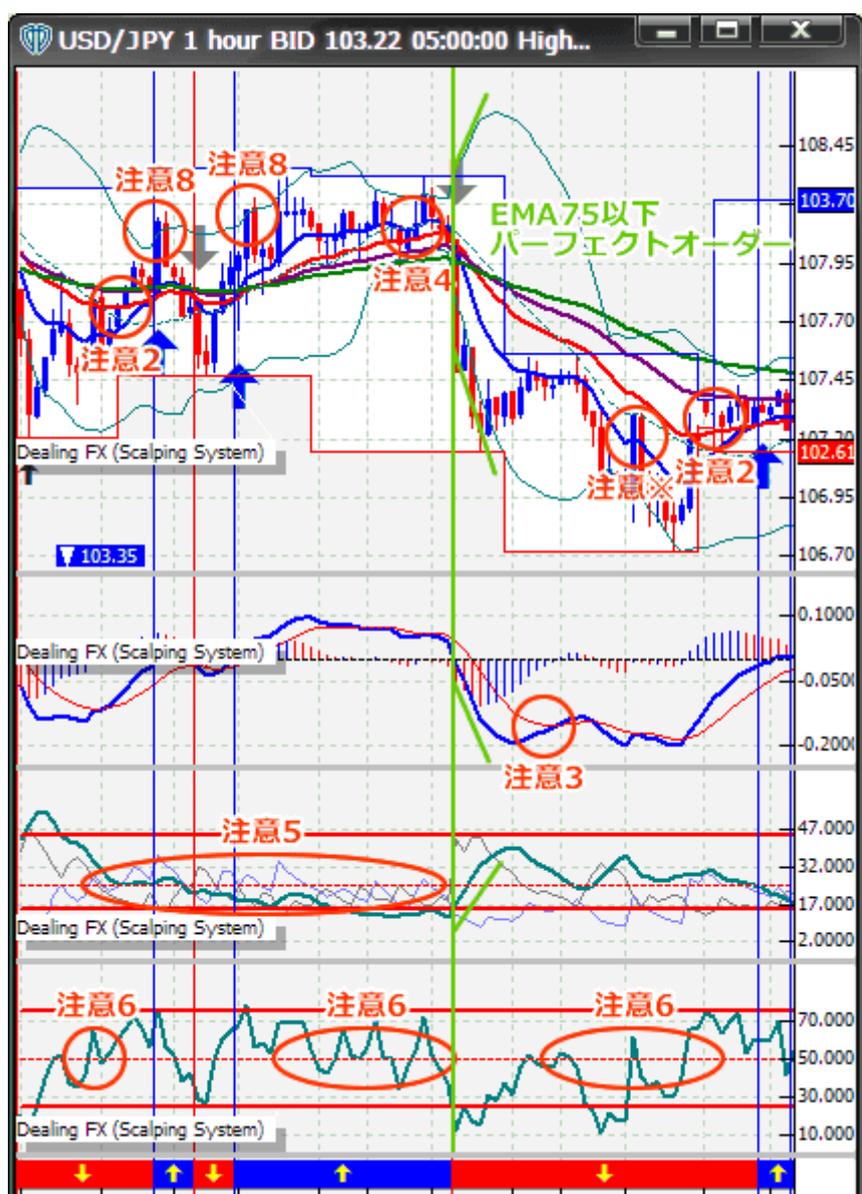
- 4本のEMAがパーフェクトオーダーで、ADXは上昇中。
- MACDがトレンドの方向に傾斜している。
- ボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ が上下に口を開いている。
- ミドルバンドがトレンドの方向に傾斜している。

不都合な状態

1. 買いシグナル継続中だが、ローソク足が **EMA25** を下抜けしてきた。
2. 売りシグナル継続中だが、ローソク足が **EMA25** を上抜けしてきた。

※ただし、パーフェクトオーダーとなっている状態では、[EMA10](#)割れに注意。

3. MACDがトレンドと逆行している。
4. $\pm 2\sigma$ が横ばい、ボラティリティが60pips以内(利幅が取れそうにない)。
5. ADXが下降中、もしくは25%以下で推移している。
6. RSIがトレンドと逆方向の50%を割ってきている。
7. ミドルバンドがトレンドと逆行している。もしくは横ばい。
8. 既にローソク足がボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ に近接している。



実際の1時間足チャートを見た場合の注意点(赤○)と、後半(緑色の線以降)は注意点はあるものの好都合でトレードできる状態です。

注意点はたくさん出てしまっていますが、実際にはローソク足が **EMA25** の上にあるのか下にあるのかで、大まかなトレンドをつかんでいただければ結構です。

中期時間枠(10 分足)

長期時間枠で大雑把な方向分析をした後は、中期時間枠で長期と相場の方向が同方向か、逆方向か、EMA10 と EMA75 の位置関係を節目に、その時のローソク足の位置によって売買ポイントが変わってきます。トレード プランを立てるうえで重要な時間枠となってくるので、何度も読み返してください。

A) EMA10 が EMA75 以上の時、押し目買いスタンス

- a) ローソク足が EMA10 を上抜けて買い。
- b) ローソク足が EMA10 を下抜けて見送り。

B) EMA10 が EMA75 以下の時、戻り売りスタンス

- c) ローソク足が EMA10 を下抜けて売り。
- d) ローソク足が EMA10 を上抜けて見送り。

エントリーの判断となるのは、基本的に a と c のみです。b,d についてはトレンド転換のためいったん見送るのが基本ですが、エントリー チャンスを増やしたい場合、以下の状況でそれぞれ売買することも可能です。

- b) ローソク足が EMA10 をレジスタンスとして下降していれば、戻り売り。
- d) ローソク足が EMA10 をサポートとして上昇していれば、押し目買い。

「レジスタンスとして下降」と言うのは、ローソク足が下降中の EMA10 を上抜け出来ずに下がる状態。「サポートとして上昇」と言うのは、ローソク足が上昇中の EMA10 を下抜け出来ずに上がる状態を言います。ただし長期的なトレンドに逆らったエントリーとなりますので、慣れないうちは見送りしてください。

好都合な状態は、1 時間足と共通ですが、特にエントリーする方向にローソク足が EMA10 以上にあることと角度があることです。

- **EMA10** の角度がエントリーする方向と「既に」逆向きとなっている。

例えば、**EMA10** が **EMA75** 以上で、ローソク足が **EMA10** 以上となる押し目買いスタンスであっても、**EMA10** が「既に」下向きになっている陰線の場合は注意が必要です。

角度が何度傾いているのか数字で定義をするのは難しいのですが、エントリーしようと思ったその時の **EMA10**、**EMA25** の角度が水平以上になればいい状態ではありません。

- ローソク足がボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ に跳ね返されて **MACD** がクロスしている時。
- 買いシグナル継続中だが、ローソク足が **EMA10** を下抜けしてきた。
- 売りシグナル継続中だが、ローソク足が **EMA10** を上抜けしてきた。

例えば、**EMA10** が **EMA75** 以上で、ローソク足が **EMA10** 以上となる押し目買いスタンスであっても、 $+2\sigma$ に跳ね返された後、**MACD** がデッドクロスし、ローソク足が **EMA10** を割ってきたら、売り転換です。

- **MACD** と **EMA10** が逆行している。
- $\pm 2\sigma$ が横ばい、ボラティリティが **25pips** 以内(利幅が取れそうにない)。
- **ADX** が下降中、もしくは **25%**以下で推移している。
- **RSI** がトレンドと逆方向の **50%**を割ってきている。
- ミドルバンドがトレンドと逆行している。もしくは横ばい。
- 既にローソク足がボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ に近接している。



※左が1時間足。右が10分足です。

1時間足では、パーフェクトオーダー、EMA10をレジスタンスとして下降。10分足では、EMA10がEMA75以下。

- ローソク足がEMA10を下抜けて売り(緑○)。
- ローソク足がEMA10を上抜けて見送り(赤○)。
- 最後は、EMA10がEMA75以上になってきたため、押し目買いスタンス(青○)となり1時間足では未だ売りシグナルですがEMA25を上抜けしてきて、上昇トレンドの転換ポイントになります。

同じようなチャート例をもう一つ見てみましょう。



※左が1時間足、右が10分足です。

1時間足の緑○で囲まれた箇所は戻り売りに見えますが、10分足では押し目買いのように見えます。このような時は、10分足の押し目買いスタンスを優先します。

短期トレードとして見た時 EMA10 が EMA75 以上になってくると、押し目買いスタンスとなり 1時間足では未だ売りシグナルですが、ローソク足が EMA25 を上抜けしてきたので、上昇トレンドの転換ポイントとして考えます。

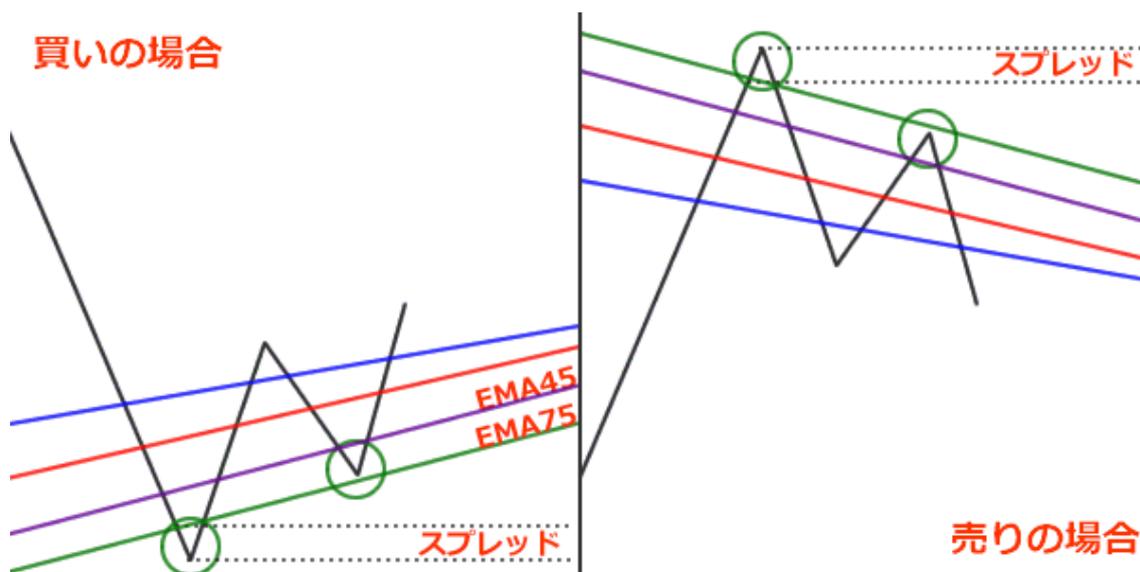
1 分足(短期時間枠)

1 時間足のトレンドに注意しながら、10 分足で買いか売りを判断したら、逆張りの要領でエントリーします。トレードを実行に移すための時間枠ですのでサインは単純ですが、

1. 買い：ローソク足が「EMA75+スプレッド」下抜けでエントリー。
2. 売り：ローソク足が「EMA75+スプレッド」上抜けでエントリー。

「EMA75+スプレッド」のエントリーポイントに乗り遅れた場合、以後「EMA45+スプレッド」を次のエントリーポイントとします。指値注文を出しておくことも可能です。

ただし、GBP/JPY や GBP/CHF など、比較的スプレッドの大きな通貨(目安として 8pips 前後)をぴったり待っていると、機会利益の損失となってしまうため、半分ほど(スプレッド 8 であれば、4pips)待ってエントリーするようにします。



上図は 1 分足の状態を単純化した図ですが、エントリー前までパーフェクトオーダーとなっている状況をイメージしてください。実際のポイントでは、EMA10 と EMA25 がエントリーしようとする方向とは逆にクロスしそうな(している)状態になります。



P47の1つ目の売りシグナルが出たところの1分足です。

10分足でエントリーの判断を下した後は、1分足では既に大きく下落していますが、じっくりとエントリーポイント(この場合は戻り売り)を待つことになります。指値注文を出しておくのも有効ですが、EMA75の動きに合わせて都度エントリーポイントを調整します。

まとめると、

1. 長期時間枠のトレンドを把握しておく

- A) 買いシグナル継続中、ローソク足が **EMA25** 以上であれば上昇トレンド。
- B) 売りシグナル継続中、ローソク足が **EMA25** 以下であれば下降トレンド。

2. 中期時間枠でエントリー方向を確認

A) 上昇トレンド

- a) **EMA10** が **EMA75** 以上、ローソク足が **EMA10** を上抜けて買い。
- b) **EMA10** が **EMA75** 以上であっても、ローソク足が **EMA10** を下抜けて見送り。

B) 下降トレンド

- c) **EMA10** が **EMA75** 以下、ローソク足が **EMA10** を下抜けて売り。
- d) **EMA10** が **EMA75** 以下であっても、ローソク足が **EMA10** を上抜けて見送り。

b)、d)でエントリーする場合

- b) ローソク足が **EMA10** をレジスタンスとして下降していれば、戻り売り。
- d) ローソク足が **EMA10** をサポートとして上昇していれば、押し目買い。

3. 短期時間枠で条件が合致すればエントリー

- a) ローソク足が「**EMA75+スプレッド**」下抜けて買い。
- b) 見送り。
- c) ローソク足が「**EMA75+スプレッド**」上抜けて売り。
- d) 見送り。

b)、d)でエントリーする場合

- b) ローソク足が「**EMA75+スプレッド**」上抜けて売り。
- d) ローソク足が「**EMA75+スプレッド**」下抜けて買い。

レンジ相場の注意点

中期時間枠以上でパーフェクト オーダーとなっていて強いトレンドと確認できても、ローソク足がボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ に跳ね返されてMACDがクロスしている時や、EMA10を割ってきた時は、トレンドの転換に注意が必要です。



1時間足では、ローソク足がEMA25以下の下降トレンドと判断できても、「パーフェクト オーダーとなっている状態では、EMA10割れに注意」の状態、 -2σ に跳ね返されて、MACDも反転してきているためトレンドの転換を示唆。

10分足では、EMA10がEMA75以下で、ローソク足がEMA10以下となる戻り売りスタンスであっても、バンドウォークの後に、 -2σ に跳ね返されて、MACDもゴールデンクロスし、EMA10を上抜け(d)してきた不都合な状態(買い転換)で、EMA10をサポート上昇となってきた場合。

どちらの時間足も未だ売りシグナル継続中でしたが、買いシグナルに転換してくる可能性が高くなってきます。1分足ではダマシのポイント(赤o)がありました。

同じようなチャート例をもう一つ見てみましょう。



※左から順に1時間足、10分足、1分足です。

1時間足では、ローソク足が **EMA25** 以下の下降トレンドと判断できても、下ヒゲが長い陰線(上昇を示唆する陰線)が、 -2σ に跳ね返され、陽線となって反発してきている状態。

10分足でもバンドウォークの後に、ローソク足が -2σ に跳ね返されて、MACD もゴールデンクロスしそうなところから、一気に **EMA10** を上抜け(d)してきた不都合な状態(買い転換)で、**EMA10** をサポート上昇となっている場合。

1分足では売りでエントリーしていたらダマシ(1つ目の赤o)となっていました。

2つ目の赤oの点では、**EMA10** と **EMA75** がクロスしていますので、ここからはもう売りでエントリーすることはできません。

かと言って、1分足はエントリーの実行するタイミングを計る時間枠であって、トレードするかしないかの判断する時間枠は、10分足以上になるため、ここからは視点を1時間足と10分足に戻します。

このように 1 分足のエントリーポイントにおけるダマシを防ぐ方法として、ローソク足が「EMA75+スプレッド」のエントリーポイントに来たとしても、すぐにエントリーするよりも、再度 EMA75 をトレンド方向に抜けてきた時に初めてエントリーすると安全です。

具体的には、

買いの場合

1. ローソク足の終値が「EMA75+スプレッド」を上抜けしたのを確認
2. そのローソク足の高値を上を越えてきた段階でエントリー

売りの場合

1. ローソク足の終値が「EMA75+スプレッド」を下抜けしたのを確認
2. そのローソク足の安値を下を割ってきた段階でエントリー

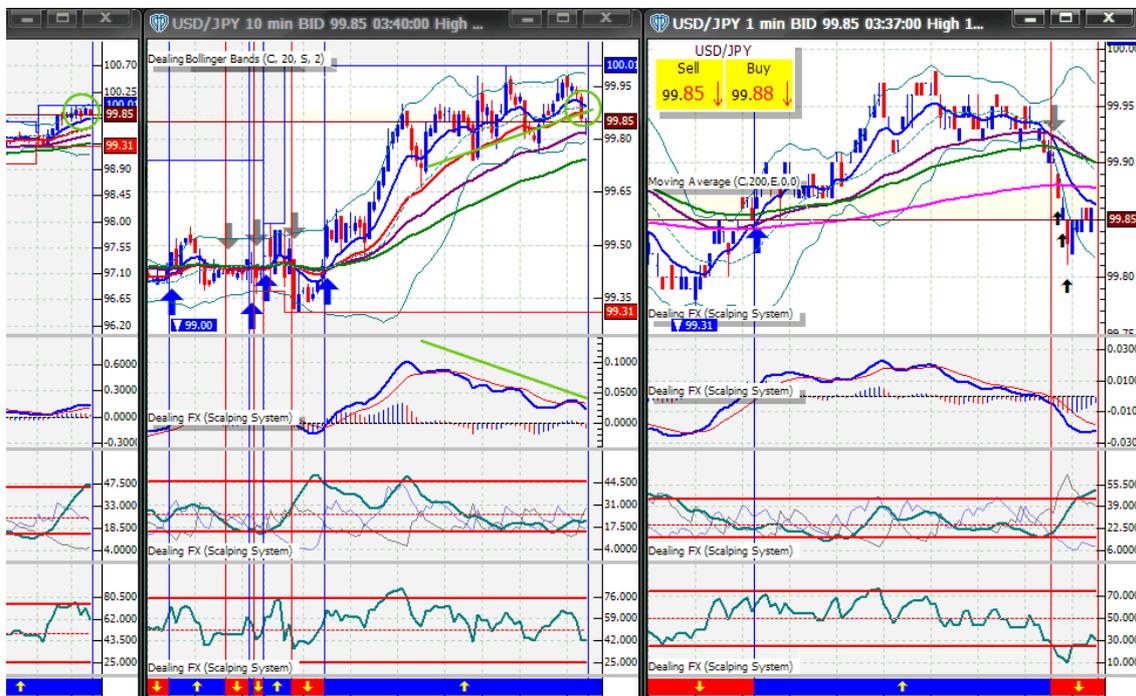


これを確認してからのエントリーが、より安全です。

もちろん 10 分足のダマシを防ぐ点でも共通です。

- ローソク足が **EMA10** を上抜けて買いなのか見送りなのか。
 - ローソク足が **EMA10** を下抜けて売りなのか見送りなのか。
- これらを見極めるときにも有効です。

次に「1時間足、10分足では押し目買い。けれども1分足では戻り売り?」よくいただくご質問ですので、応用になりますが下図のチャートを見てみましょう。



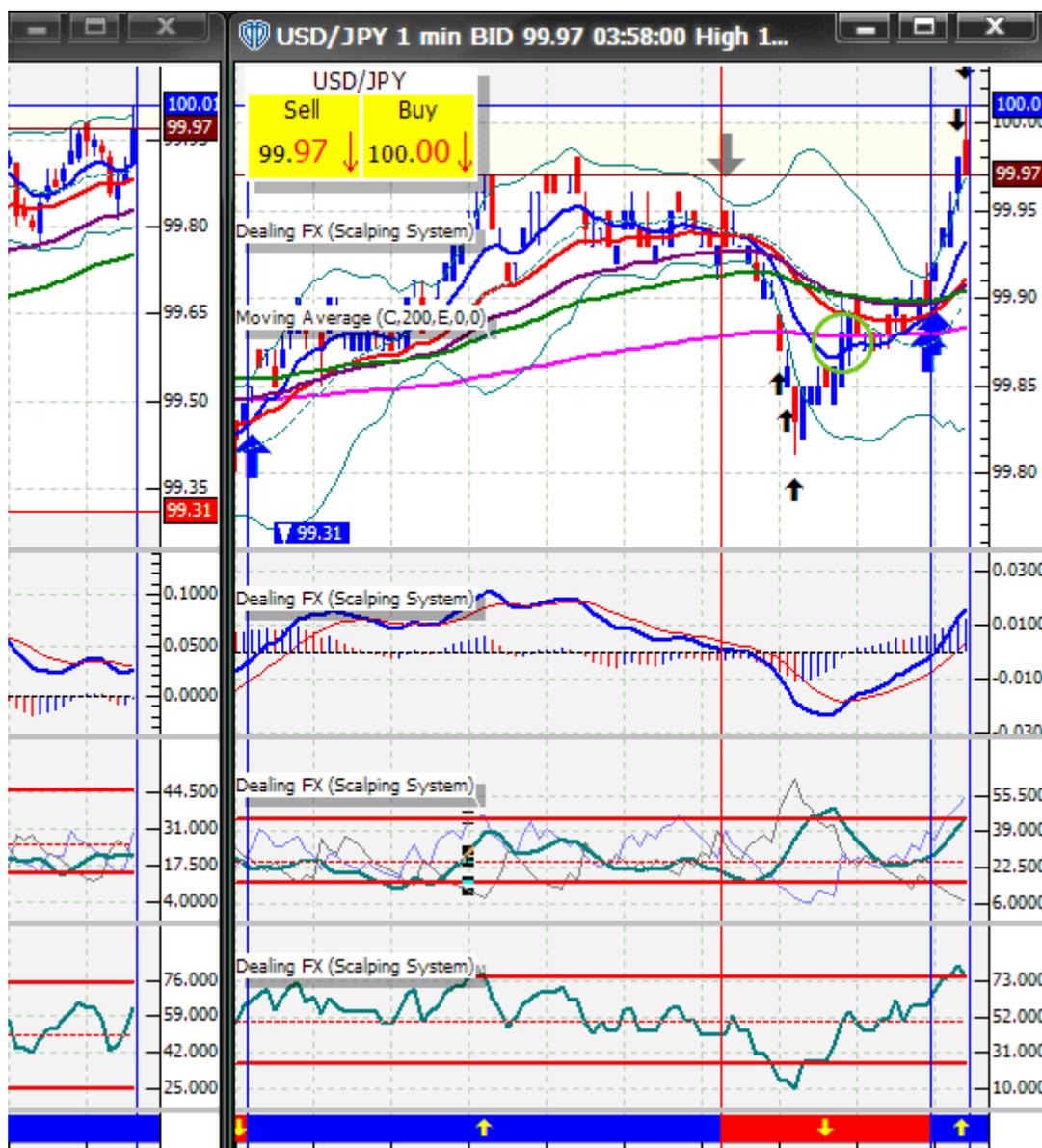
※左から順に1時間足、10分足、1分足です。

1時間足では、ローソク足が **EMA25** 以上、パーフェクトオーダーでローソク足も **EMA10**(10分足の **EMA75**)以上にある上昇トレンド。

10分足では、**EMA10** が **EMA75** 以上であっても、**EMA10** の角度がエントリーする方向と「既に」逆向き(この場合は下向き)となっている不都合な状態。ローソク足が **EMA10** を下抜け。この状態では見送り(b)。

ルール上この時点で1分足を見ることもなく、トレードできる状態になりませんが、**EMA25** ~ **45** を押し目に、買いでエントリーしていてもいいようにも見えます。**MACD** と **EMA10** が逆行していますので、不都合な状態に変わりありませんが1分足では、ローソク足がどこまで下落したところでエントリーしていてもいいものなののでしょうか。

ポイントは、1分足のバンドウォークの後に、ローソク足がボリンジャーバンドの -2σ に跳ね返されて EMA10 を上抜けしてきたところです。10分足でも下ヒゲをつけた陽線になったのを確認してのエントリーとなります。



通常は10分足の EMA10 を上抜けしたところから押し目買いになりますが、1分足でその押し目の起点を狙った例です。

今回はうまく上昇していますが、エントリーしたと思えば下落する可能性がありますので、最も下落したローソク足よりも下落したら即ロスカットするようにします。

ロスカット ポイント

1分足でエントリーしたら、直後ロスカット ポイントを置きます。基本は1分足のエントリー ポイントから「一つ大きな EMA+スプレッド」になります。

- EMA45+スプレッドでエントリーしたら、EMA75+スプレッド
- EMA75+スプレッドでエントリーしたら、10分足の EMA25

なお、エントリー ポイントが10分足の各 EMA であった場合は、同時間枠のエントリー ポイントから一つ大きな EMA とします。

- EMA25 でエントリーしたら、EMA45
- EMA45 でエントリーしたら、EMA75
- EMA75 でエントリーしたら、1時間足の EMA25

タイトなストップになりますが、リワード・リスクがそれぞれ1~2対1見込めるポイントとします。

この手法でロスカットになると、その後1分足で再度 EMA75 をサポートとするかレジスタンスとするのか分かれ目となって、すぐにエントリーしたくなる場合があるかと思いますが、いったん視点を10分足の方に戻して、その後トレンドがどちらに向くかをしっかりと待つように観察してください。ローソク足そのものに大きな動きがなければ一休みです。

すぐにエントリーしたいと衝動にかられ、1分足だけを見て「やはり買いか、いや売りだ」とポジションを持ちたがると最悪往復ビンタをくらいます。後述する「8. 心理管理」でも詳述いたしますが「取り返さねば」という感情でトレードしてはいけません。

リミット ポイント

最少利益目標は 1 分足のボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ にローソク足が到達したポイントとします。すなわち、

- 買いポジションの時：ローソク足が $+2\sigma$ にタグ。
- 売りポジションの時：ローソク足が -2σ にタグ。



特に 10 分足の EMA10 と MACD の方向が逆行している状態は、素早く決済するようにします。慣れないうちはこの決済方法が安全です。そうでない場合は、10 分足のボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ にローソク足が到達したポイントを標準利益目標としてください。



また 10 分足でバンドウォークとなって大きな利益を上げている場合、MACD が反転しかかってきたら決済してください。反転しかかってきたらというのが分かりづらい場合は、一つ短い時間枠の 5 分足の MACD のクロスを目安にします。また黒色の小さな矢印が出た時はいったん利益確定してしまった方が安全です。

エグジットについて、1 分足の $\pm 2\sigma$ に到達したポイントであったり、10 分足の MACD が反転しかかってきたポイントであったりと曖昧なのではと思われる方もいらっしゃるかと思いますので補足しますと、スキャルピングといった短期売買の場合、エグジットのルールを明確にするよりも、今まさに利益が乗ってくるか乗ってこないかを狙ってのエントリーポイントの方が非常に重要で、エグジットするルールとしては、思惑通りに動いたか動かないか、いずれにせよ瞬時に決済となる場面が多いためです。

そのためエントリーしている方向と中期時間枠の MACD の傾きには常に注意しながら、利益を伸ばせるところは粘って、反転しかかるポイントで決済することになります。

エントリーまでのフロー チャート

長期	中期	サイン	注意点	短期
EMA25 以上(A)	EMA10 が EMA75 以上 ローソク足が EMA10 を 上抜け(a)	買い	ローソク足が EMA10 をレジスタンス下降 に注意	EMA75 にローソ ク足が押したとこ ろで買い
	EMA10 が EMA75 以上 ローソク足が EMA10 を 下抜け(b)	見送り	上記注意点に当ては まっていれば、戻り売 りも可能	EMA75 にローソ ク足が戻したとこ ろで売り
EMA25 以下(B)	EMA10 が EMA75 以下 ローソク足が EMA10 を 下抜け(c)	売り	ローソク足が EMA10 をサポート上昇に注 意	EMA75 にローソ ク足が戻したとこ ろで売り
	EMA10 が EMA75 以下 ローソク足が EMA10 を 上抜け(d)	見送り	上記注意点に当ては まっていれば、押し目 買いも可能	EMA75 にローソ ク足が押したとこ ろで買い

※青い枠は買い、赤い枠は売りでエントリーできる箇所です。

エグジット

エントリー	ロスカット	リミット ポイント
EMA45+スプレッドで エントリーした時	EMA75+スプレッド	1. 1分足の $\pm 2\sigma$ (最少利益目標) 2. 10分足の $\pm 2\sigma$ (標準利益目標) 3. MACDの反転 4. 10分足の黒色の小さな矢印
EMA75+スプレッドで エントリーした時	10分足の EMA25	
10分足の EMA25 でエ ントリーした時	10分足の EMA45	
10分足の EMA45 でエ ントリーした時	10分足の EMA75	

スキャルピングが苦手な方に

スキャルピングの利点は、忙しい人も時間のある人も、とにかく短時間と言う限定枠で大きな利益を上げるという点です。しかしレンジ相場に手を出して、トレンドに飲み込まれては、素直に考えて損大利小となってしまいます。より「安全」を求める場合、売買回数は少なくはなりますが、1時間足と10分足を主力にするのも手です。とにかくトレンドを把握し、大きく負けないこと。相場のトレンドに逆らわないことが重要になってきます。

長期時間枠では、EMA10~25以上にローソク足がある状態は、中期時間枠では、EMA75以上にローソク足がある状態に相当します。そのEMA75がトレンドのサポートライン、もしくはレジスタンスラインとして、ローソク足がEMA75を割ってこなければ、トレンドは継続していると考えられます。

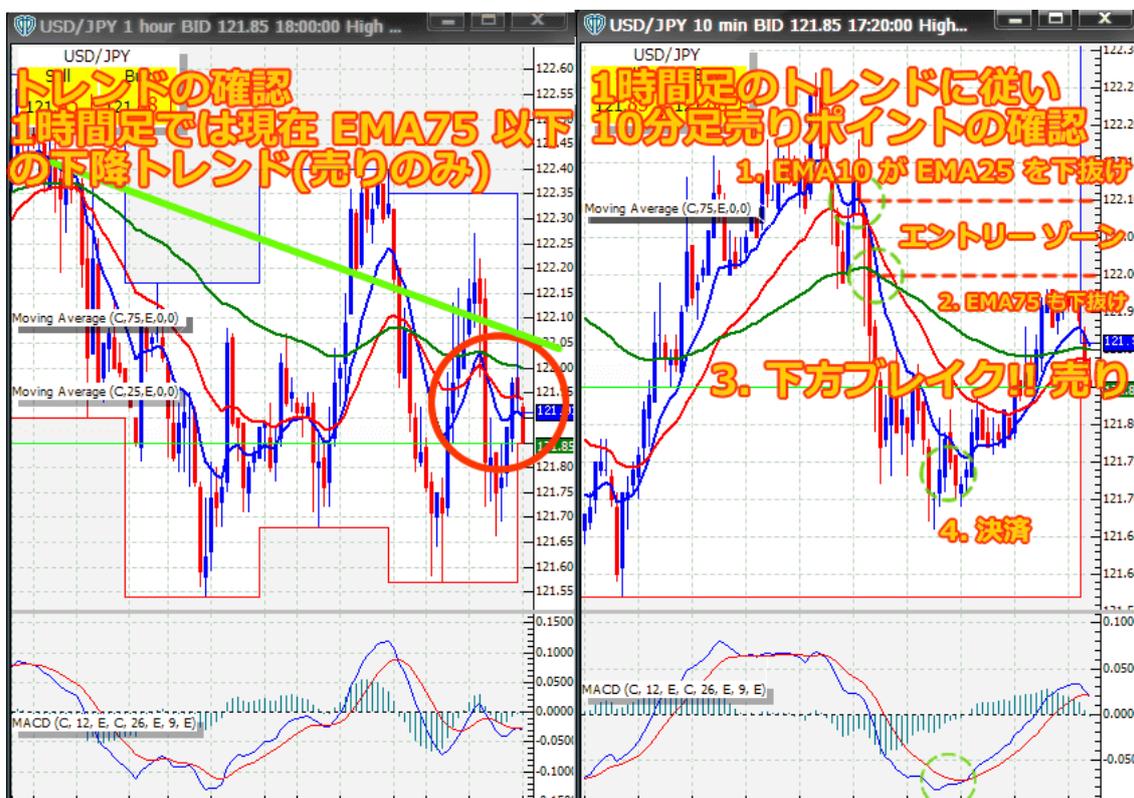
- 1時間足でローソク足が、EMA25の上にある場合は、上昇トレンドと判断し、10分足でEMAゴールデンクロスで買いのみ。
- 1時間足でローソク足が、EMA25の下にある場合は、下降トレンドと判断し、10分足でEMAデッドクロスで売りのみ。
- EMA10~75(、MACD)が膠着していて、ローソク足も上下を繰り返すトレンドの分からない相場は、無視。

あまりにもダマシが多すぎる日は、いっそのこと休むも相場ですが、値動きの大きい時間帯、日本時間でロンドン市場がマーケットに参入してくる17時以降、ニューヨーク市場の参入してくる21時辺りの値動きに着目します。

また、重要な経済指標が落ち着いた後、日本時間の23時以降は、比較的EMAの方向に値動きが素直になってくる傾向があります。

そして、ロンドン市場が終わるのが、日本時間にして25時となってきます。それ以降はまた値動きが鈍くなってきますので、最悪遅くとも26時にはいったん、全てのポジションを手仕舞うのが無難です。

それぞれの EMA がきれいに下から EMA75、EMA45、EMA25、EMA10 と順に交差していくチャートを描いていけば、短い時間足で買いエントリー。逆に交差していくチャートを描いていけば、売りエントリーしていけば、必ず利益は後からついてきます。



1 時間足の EMA75 が下降トレンドです。よって、売りエントリーのみに限定します。

続いて右側のチャートで、10 分足の EMA10 と EMA25 のデッドクロスでエントリーするタイミングを待ちます。EMA75 も割ってきたら、下方ブレイクです。

決済ポイントは、10 分足の MACD でも構わないのですが、前述の通り、MACD のクロスしきった後では、すでにトレンドが反転してしまっている場合があるため、主力で使う時間足より一つ短い時間足(ここでは5分足)のMACDにすると、素早く手仕舞える事ができ、利益の最大化を狙えます。

まとめると、

1. 1時間足の **EMA25** で上昇(買い)トレンドか下降(売り)トレンドかを判断する。
2. 10分足で売買ポイントを限定する。
 - 2-1. 1時間足で上昇(買い)トレンドであれば、10分足のゴールデンクロスで買い
 - 2-2. 1時間足で下降(売り)トレンドであれば、10分足のデッドクロスで売り
3. 決済ポイントは5分足のMACDクロス。

となります。

細かな注意点を上げれば、基本は大きな時間足で **EMA75** とレートの位置関係で、トレンドを把握しながらも、主力の時間足で、

- エントリーする方向に、MACD と **EMA10** が傾いているのを意識する。
- 決済ポイントは、MACD の反転に注意する。

以上、最もシンプルなシグナルに従ったスキャルピングとなります。徐々に勝てるという自信がついてきたら、少しレバレッジを高めにし、スプレッド+@を抜けば、数秒ですぐに大きな利益を狙えるでしょう。例えば、USD/JPY を 10 万通貨でやれば、スプレッド+1pips 抜くだけで、現金で 1000 円です。そんなのは地味だと声も聞こえてきそうです。確かに数分でうん十万と言うのも人情ですが、1 万通貨でトレードした場合は、10pips 抜いたのと同じなのです。最終的にスキャルピングと長く付き合うには、ハイレバレッジで数 pips 抜いたら、欲張らずに決済勝ち逃げ。

これが連続できてこそ、スキャルピングの醍醐味でしょう。

ご成功をお祈りします。

6. ケース・スタディ

Q1



※左から順に、1時間足、10分足、1分足です。

まず1時間足チャートでは、現在のレートは **EMA25** 以下の下降トレンドとなりますが、実際には **EMA10** と **EMA25** が密着した状態でレンジ相場になっています。

そして10分足では、**EMA10** が **EMA75** 以下で、**EMA10** をローソク足が大きく下抜けしています。このローソク足の下降に追従していきたいところです。

USD/JPY のスプレッドを3として、どのようなトレードプラン(トレードするのかわからないのか、する場合エントリーポイント、ロスカット、リミットポイント)を立てますか?

先の1分足チャートで **EMA75**+スプレッドのエントリーポイントは、**102.43** となります。ただ、大きく下降している最中と言うこともあってこのまま **EMA75** は下がると予想し、**102.39** に売り指値をセットしておきました。

ストップは10分足の **EMA25** の **102.43** として、リミットは10分足の -2σ が **102.25** ですが、若干スプレッド分ほど余裕を持たせ **102.28** に。1分足の -2σ として考えれば、**102.26** となりますが、スクイーズになることも考えると、これも余裕を持たせ **102.23** あたりを目安にします。

1分足で指値がヒットすれば、レートが下がり次第利益が乗ります。ただし、**EMA10** が **EMA75** を上抜けした時は、成り行きでロスカットしたいと思います。



今回は緑○で囲まれたポイントでトレードをすることができました。

途中赤○で囲まれた場所は、**EMA10** が上昇し、ローソク足が上抜けてきている状態で決済したくなる場面かと思いますが、10分足の **EMA10** や **MACD** の向きもしっかりと下向きで勢いがありますので、無視して持ちこたえました。このトレードでは、約30分かかりました。

Q2



先ほどのチャートからは 1 分足でレンジ相場が続いています。すでに買いシグナルが出ており、しかもローソク足は EMA75 を上抜けし、いったんスプレッド分は押したポイントです。

どのようなトレード プラン(トレードするのかわからないのか、する場合エントリー ポイント、ロスカット、リミット ポイント)を立てますか？

この状態ではいったん見送りです。1分足だけを見てトレードするかしないかの判断はできませんでした。

10分足ではルール上戻り売りスタンスとなり、EMA10の角度も水平以下にあるためエントリー可能ですが、MACDが反転してきているため、このままレンジ相場がまだしばらく続くか、トレンドの転換が予測されるためです。



あれから10分足では、EMA25まで上げました。1分足では最高値を付けた陰線のポイントでしたが、再度下落しエントリーしていれば取れているところでした。

Q3



あれから見送りしたまま、もう少し時間が進んだチャートです。

1時間足の状態では、**EMA25** 以下の下降トレンド。10分足では、**EMA10** が **EMA75** 以下で、**EMA10** をローソク足が下抜けしています。この状態では戻り売りスタンスとなりますので、1分足でじっくりとエントリーポイントを待つようにしていました。

既にトレードをし終わった状態ですが、どこでエントリーし、どこでエグジットしたでしょうか。また、今回はどうして今までトレードを見送っていたのでしょうか。



今回は緑○で囲まれたポイントでトレードをすることができました。トレードを見送っていた理由は、10分足でEMA10がEMA75以下であっても、ローソク足がEMA10を上抜けしてきた不都合な状態で、EMA10をサポート上昇していたためです。ところが再度EMA10を下抜けし売りシグナルが出たので、戻り売りのチャンスをうかがいました。

1分足チャートでエントリー前の段階では、既に大きく下落した後でしたが、いったん -2σ にローソク足が跳ね返され、EMA10を上抜けし101.82まで上昇。ところがその後再度 -2σ まで下がり、やや保ち合っているようでしたので、今回はしっかりと安全を見て、EMA75+スプレッドの101.87でエントリーしました。

ストップは10分足のEMA25を想定しておきますが、今回10分足のEMA25にタッチしたところがエントリーポイントとなったため、それよりも大きなEMA45の101.96に。リミットは10分足の -2σ が101.68ですが、若干スプレッド分ほど余裕を持たせ101.71をとりあえずの目標としました。

結果論ですが、この後101.50ほどまで下落しました。ただ、現時点のチャートでは、10分足のMACDは膠着していたため、早めの決済をしました。



今回通貨を変えて EUR/USD です。通貨が変わったからと言って、何も手法が変わるわけではありません。エントリーが狙えそうなチャート、スプレッドの小さな通貨を選んでトレードしてみましょう。

まず 1 時間足チャートでは、ローソク足が **EMA25** 以上で、しかもパーフェクトオーダーを形成中で **EMA10** 以上にある強い上昇トレンドです。

そして 10 分足では、**EMA10** が **EMA75** 以上、直近では **EMA75** を押し目に反発上昇して、ローソク足は現在陰線となっているものの **EMA10** の角度も水平以上となっています。

EUR/USD のスプレッドを 3 として、どのようなトレードプラン(トレードするのかわからないのか、する場合エントリーポイント、ロスカット、リミットポイント)を立てますか?



今回は緑○で囲まれたポイントでトレードをすることができました。

通常のルール通り、1分足の **EMA75**+スプレッド分を下回った **1.5724** で買いエントリーしました。

ストップは10分足の **EMA25** ですが、ちょうどそこにタッチしたところがエントリーポイントとなったので、一つ大きな **EMA45** の **1.5720** に。とりあえずの利益目標に同時間枠のボリンジャーバンド+ 2σ の **1.5736** からスプレッド分を差し引いた **1.5733** に指値をセットしておきました。

一瞬でリミットにかかり、このトレードでは、約5分で終了しました。

今までは順調にトレードができていますが、ここでレバレッジを一気に大きくしてみようとか、ストップをもう少し緩めてみようとは考えずに、淡々と実行していきます。



再度通貨を変えて、GBP/USD でのトレードでした。

1分足チャートでちょうど真ん中あたりの買いシグナルが出たところで、ローソク足が **EMA75** をスプレッド分の 4pips 上抜けしたところ、1.9923 で成り行き売りエントリーしました。

ストップは 10分足の **EMA25** にあたる 1.9930 に。リミットは、同時間枠のボリンジャーバンドの -2σ 、1.9911 からスプレッド分余裕を持たせ 1.9915 を想定しました。

ところがエントリーした後、一気に大陽線が出てしまい、あえなくロスカットに引っ掛かりました。

今回は負けトレードとなりました。これもいつも通りですが、仕切り直して少しリスクを取ってでもエントリーしたポイントがあります。どのようなトレードプランを立てたでしょうか？



これは、つい先ほどロスカットにあった時点では、1時間足、10分足では戻り売り。けれども1分足では押し目買いのようにも見えた状態で、1分足だけを見ていてはトレードする方向を見誤りそうな例です。

1時間足では、ローソク足が **EMA25** 以下で、パーフェクトオーダーこそ形成していませんが、**EMA10** をレジスタンスとして下降トレンド。ただし、**EMA75** の上にあることもあって、早めのエグジットは頭に入れておきます。

10分足では、**EMA10** が **EMA75** 以下であっても、**EMA10** の角度がエントリーする方向と「既に」逆向き(この場合は上向き)となっていた不都合な状態。ローソク足が **EMA10** を上抜け。この状態では見送り(d)。

ですが、その後10分足でも陰線が確認でき、1分足のローソク足がボリンジャーバンドの $+2\sigma$ に跳ね返され、再度 $+2\sigma$ に到達するか高値を更新することも出来ずに、**EMA10** を下抜けしてきたところ 1.9933 で売りエントリーしました。

その後いきなり大陰線で大きく下落したので、すぐに戻すことも考えられるため、いったんエグジットしました。



通貨は EUR/JPY です。1 時間足チャートでは、現在のレートは **EMA25** 以下の下降トレンドとなり、さらに **EMA10** をレジスタンスとして下降している状態。

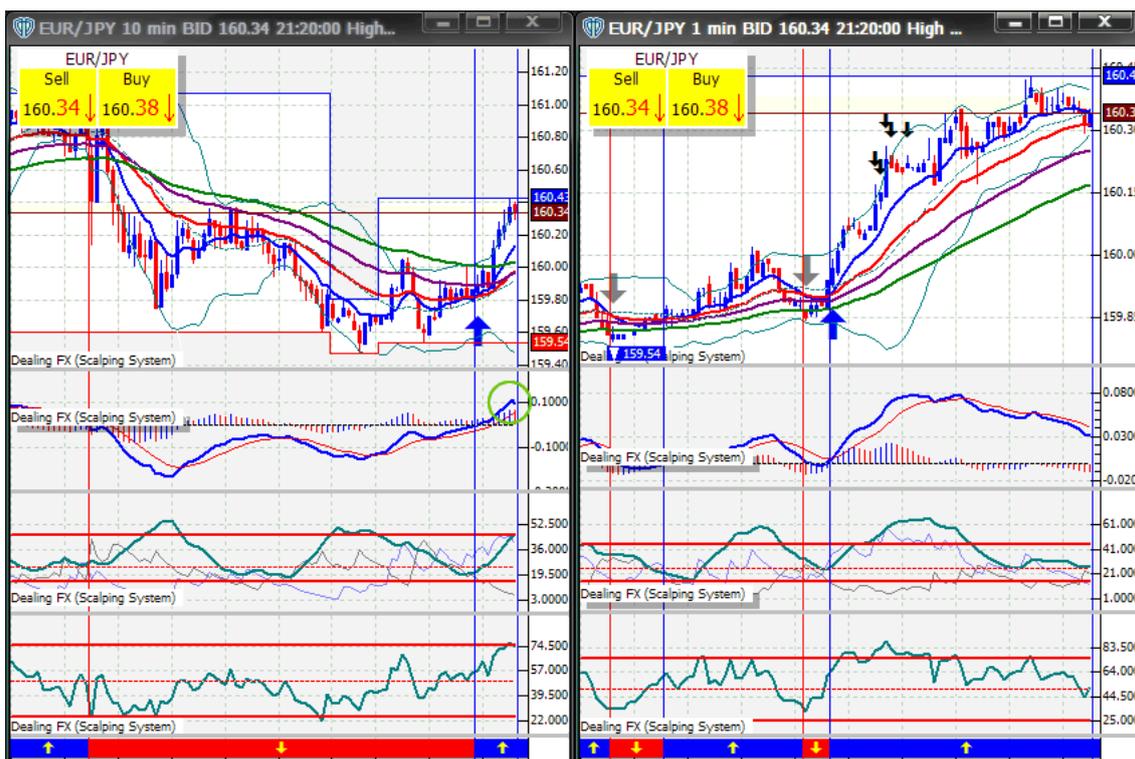
そして 10 分足では、**EMA10** が **EMA75** 以下であっても、ローソク足が **EMA10** を上抜けているので、通常はここで見送りですが **EMA10** をサポートとして上昇している点を見るとそこを押し目にエントリーしていてもいいような、少し難しい状況です。

EUR/JPY のスプレッドを 4 として、どのようなトレード プラン(トレードするのかわからないのか、する場合エントリー ポイント、ロスカット、リミット ポイント)を立てますか?

見送りと判断したいところですが、10分足のチャートでは、EMA10にサポートされていることに加えて、MACDもきれいに上昇していたため、買いエントリーしていきたいと考えました。

この時1分足チャートでEMA75+スプレッドのエントリーポイントは、159.83となりますが、以前のエントリーを逃しているため、EMA45+スプレッドの159.85でエントリーします。

ストップは以前のエントリーポイントであったの159.80にするとして、リミットを標準利益目標の10分足の+2σである160.06とするならば、リワード・リスクの観点からしても精神的にも楽なポイントです。



その後、10分足ではエクспанションとなり、MACDの反転をもって決済しました。

7. その他のセットアップ

ここからはトレンド相場とレンジ相場をより精密に判定し、ブレイクアウトを狙う手法と、トレンドの反転を見つけ、オシレーター的手法を紹介していきます。やや裁量の度合いを占める割合が大きくなってきますが、これから紹介する手法も理解することで、あらゆる相場状況において、エントリーから決済までの幅が広がるでしょう。

ボラティリティ・ブレイクアウト

ボリンジャーバンドのスクイーズからローソク足が一気にブレイクし、エクспанションとなった時、追従してエントリーしていくのがボラティリティ・ブレイクアウトです。



上記のチャートを基に、具体的なエントリー基準として、エクspansionが始まった初期を見逃さないようにします。ファンダメンタル的な要因があると、いとも簡単に $\pm 2\sigma$ のボラティリティが50pips以上になり強いトレンドが発生することもあります。

1. 上下のバンドが外側に広がり、ローソク足の終値が $\pm 2\sigma$ のバンドの外側に来ている
2. **ADX**も右肩上がりに25%のラインを上抜けし、強いトレンドが出ている
3. 終値が、 $\pm 2\sigma$ のバンドを貫き、ローソク足の実体よりも長いヒゲがない

以上の事を確認できれば、エントリーするタイミングです。

注意点として、1では上昇中の陰線であったり下降中の陽線などと言ったトレンド方向とは逆のローソク足が出た時ですが、事前にスクイーズを確認していれば、基本的に逆線でも構いません。それよりも**ADX**がしっかりとトレンドの出ている方向に勢い良く上昇している事が大切です。

また、3の終値が $\pm 2\sigma$ とタグの状態でも、実体よりも極端に長いヒゲがある場合は、レートが押し戻されてきている証拠で、反転してくる可能性が高いダマシ(ヘッドフェイク)に注意します。

例えば、1と2を確認できて、バンドウォークに乗ったかと思えば、一気に実体よりも長いヒゲが形成されたローソク足によって、レートが押し戻され、反対方向にバンドウォークが始まるようなダマシです。これが一番厄介です。

先のチャートでは、実体よりも長いヒゲではありませんが、直近2本程度のローソク足における長いヒゲは、エクspansionの終焉ならずとも、注意が必要となります。

実体より極端に長いヒゲがないことを確認できれば、1本前のローソク足の始値か実体の半分当たりにレートが反転してきたところで、押し目買い(戻り売り)の感覚でポジションを持ちます。

ロスカットポイントは、エントリー直後、スクイーズの状態にあった時の反対方向のボリジャーバンドの $\pm 2\sigma$ のバンド付近に置きます。ポジション保有中は、時間が経過するたびに、ミドルバンドの傾く度合いに合わせて狭めていきます。

決済ポイントは、エクspansionが終焉した時です。すなわち、

- 上昇トレンドの時は、下部の -2σ のバンドが水平か上向きに反転した時点
 - 下降トレンドの時は、上部の $+2\sigma$ のバンドが水平か下向きに反転した時点
- となります。

ですので、ポジション保有中は、ロスカットポイントを狭めながらも、トレンドの反対方向の $\pm 2\sigma$ のバンドの反転に注意するようにします。

さらに利益を伸ばすためには、上記の決済ポイントに差し掛かったところで、1時間足でもエクspansionし始めているかどうかを確認します。



上記のチャートは10分足でエクspansionが終焉したポイントで、1時間足チャートを見ても、トレンドと反対方向の $+2\sigma$ は外側に向かって広がっているため、トレンドはまだ続くと予測できるわけです。

長期時間枠でトレンドの続行が確認できたら、一旦中期時間枠で利益確定しつつ、再度 **EMA10~25** の押し目買い、戻り売りをするのも有効です。

その際、中期時間枠のミドルバンドと **EMA75** が同方向に傾斜していることを確認できると、より安心です。

このあたりは、後述する「トレンド フォロー」と同じ要領です。

以上が、**ADX** で強いトレンドを確認したうえでの、ボラティリティ・ブレイクアウトを狙った順張りの手法となります。

要点のまとめ

- ボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ の値幅を見て、スクイーズを確認する
- ボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ の外側にローソク足の終値が来たのを確認する
- **ADX**の強い上昇を確認する
- ヘッドフェイクに気をつける

典型的なダマシ「ヘッドフェイク」

ボラティリティ・ブレイクアウトによるエクспанションで最も厄介なダマシが、前述したヘッドフェイクですが、これを事前に読み取る最も簡単なサインとして、大陽線の後の、長いヒゲの陰線となります。

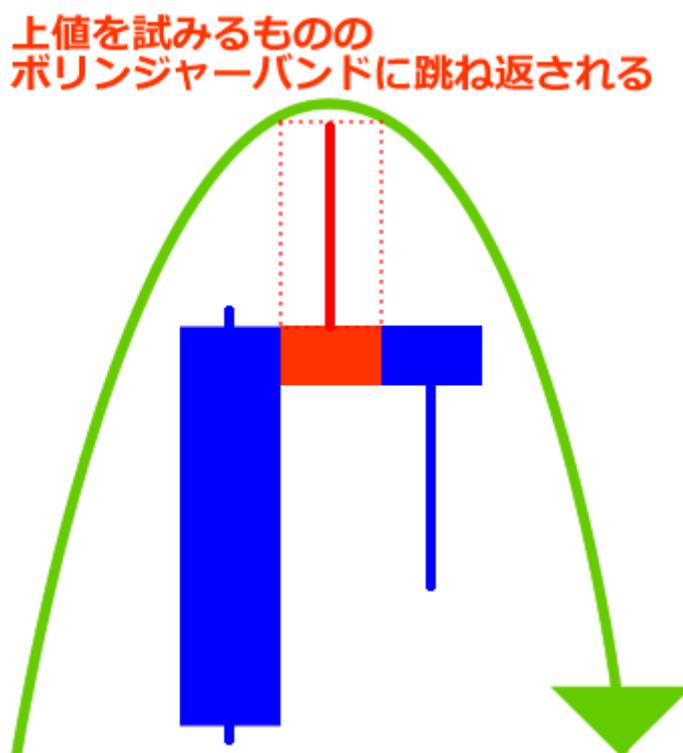


大陽線は、比較的実体の長いローソク足の事を言います。まず小幅な値動きからいきなり大陽線が出現したら、ヘッドフェイクの可能性があると注意する必要があります。どんどん急騰するレートを見て、焦ってエントリーしてしまうとダマシに遭いやすくなります。

大陽線を確認したら、さらにダマシのヘッドフェイクなのか、それとも本物のエクспанションなのかを素早い段階で見抜くには、主力の時間足よりも、さらに短い時間足に切り替え、長いヒゲの陰線が確定するか見定める必要があります。この時、同時に PDI が既に反転してきていれば、トレンドが鈍ってきているのも確認することができます。

この長いヒゲの陰線が確定したら、ヘッドフェイクの確率は高く、エントリーを見合わせます。エントリーしていたら、せいぜい 5 分足で 5 本分程度のローソク足が持ち合ってしまったら、躊躇なくロスカットします。

ローソク足を細かく見ると、以下のようなものが典型的な形となります。



特に高値圏でこのようなローソク足のパターンが見られたら、要注意です。

話が前後しますが、やはり相場にはどうしようもないダマシも存在することがあり、全く逆の事を述べますので、ここから少し注意してお読みください。

ヘッドフェイクを確認したかと思えば、結局 **EMA25** がサポートラインとなって、再度レートはボリンジャーバンドの $+2\sigma$ まで上昇してしまった場合、その時点で即ポジションをクローズした方が無難です。

ただし、ボリンジャーバンドの $+2\sigma$ を越えるか超えないかの高値をレジスタンスとしながらも、**EMA25**がサポートとして働くような、緩やかに上昇トレンドを形成。この場合、後述する「トレンド フォロー」のパターンに該当し、押し目買いスタンスに手法を切り替えます。

スキャルピングと言う短い時間枠の中で、場合によっては瞬時の判断を要するトレードを考慮すると、ここまで確認しているとかなり面倒になることは否めません。

ただ、今すぐ理解できなくても、実際にダマシに遭遇してしまった時に、再度読み返してみると、徐々に理解できてくるものがあります。

いちいち確認してられない場合は、主力の時間足よりも短い時間足で、スキャルピングチャート システムの黒色の矢印が出ていれば、ヘッドフェイクとし、エントリーを控えるなどしてもいいかと思います。

しかし、ブローカーが変わっても、これを体得しておけば、ご自身でダマシを見抜く力が養われる事と思います。

もうひとつは、長期時間枠の **EMA25**、**EMA45**、**EMA75** が、上昇か下降かを見ておくことも重要です。



トレードで一番安全なのは、パーフェクトオーダーとなっていることですが、これが一つでも別方向に傾斜していると、ヘッドフェイク(ダマシ)となるか、短命のトレンドに終わる傾向があります。

例えば、長期時間枠の **EMA25**、**EMA45**、**EMA75** が上昇中であれば、中期時間枠で下方向にエクспанションしかけても、エントリーを見送るようになれば、更に精度は増すでしょう。

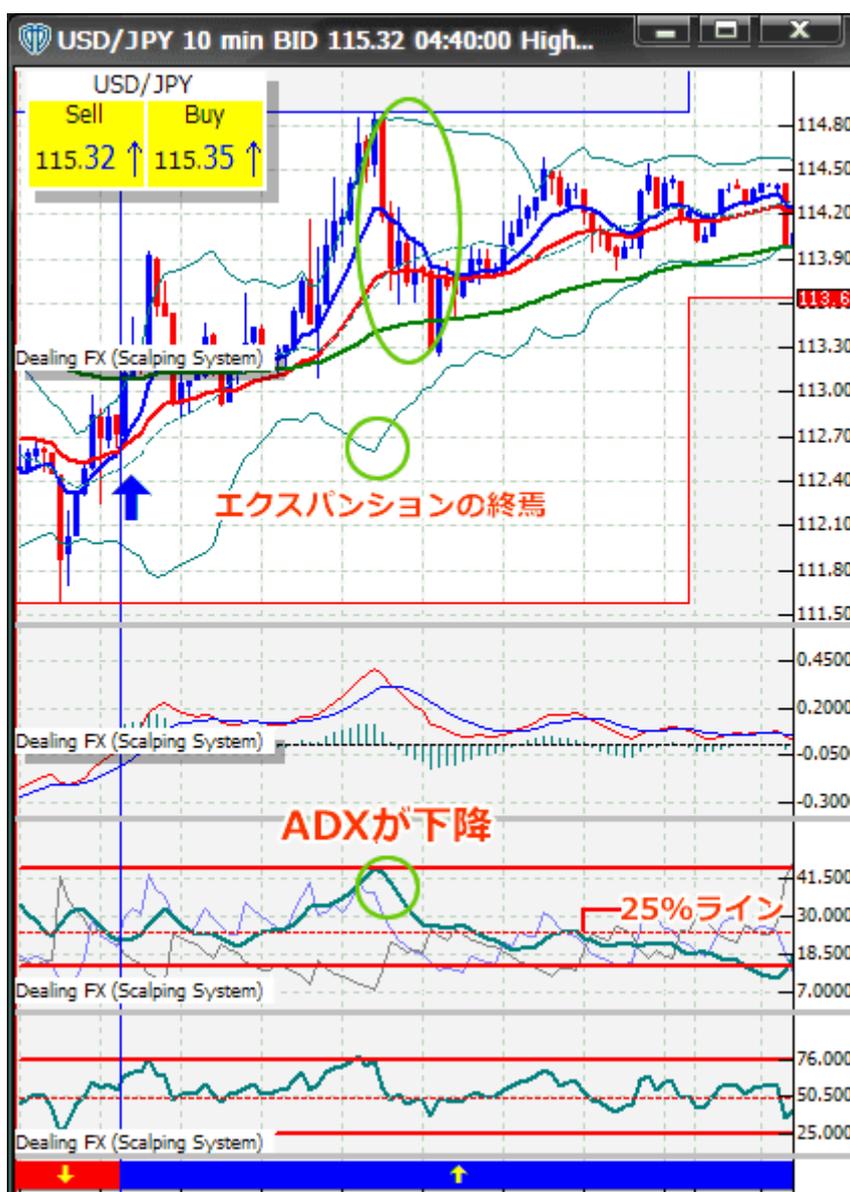
要点のまとめ

- いきなりの大陽線には注意する
- 短い時間足に変更し、長いヒゲの陰線はないか、DMIの勢いもあるか確認する
- 大きな時間足のトレンドを優先しつつ、より小さな時間足のローソク足に注意する
- 長期時間枠の流れに逆らったトレードをしない

反転

次に、ADX が下降中のチャートを見ていきます。この状態にある時は、基本的にトレード自体を控える事をお勧めします。

しかし、ADX が下降すると同時に、エクспанションの終焉により行き過ぎたレートが、いったん弱まり、反転してくるのが確認できます。この時一時的にレンジ相場になる傾向があります。つまり、ここから初めて逆張りのトレードも考えていきます。



ADXが下降した時、逆張りのエントリーポイントとして、ボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ のバンドのタグによる反転を狙っていきます。日本時間でいえば、値動きの乏しい8時~15時辺りが有効です。

エントリー条件として、大きな時間足と主力の時間足でADXが下降中、ないし25%ラインよりも下回った状態のレンジ相場で、ボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ のバンドとミドルバンドが水平状態にあれば、より好ましいトレード環境となります。

- ボリンジャーバンド上部の $+2\sigma$ のタグで、売り
- ボリンジャーバンド下部の -2σ のタグで、買い
- 決済ポイントは、ボリンジャーバンドのミドルバンド
- ロスカットポイントは、エントリーポイントから通貨の3倍のスプレッド分程度

となります。



いつ大きなトレンドに飲み込まれるかは分からないので、この辺りは注意が必要です。

10分足でもローソク足がボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ のタグすらならず、ミドルバンド付近で行ったり来たりのような、難しい状況であれば、より強いレンジ相場になっていると考えられるため、5分足、1分足などの短い時間足に変更して、決済ポイントを見出していきます。



ノントレンドの時は、RSIも同時に確認することで、より強力なサインとなりますが、売買回数は少なくなります。

以上が、ADXでノントレンドを確認したうえでの、ボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ のタグによる、反転を狙った逆張りの手法となります。

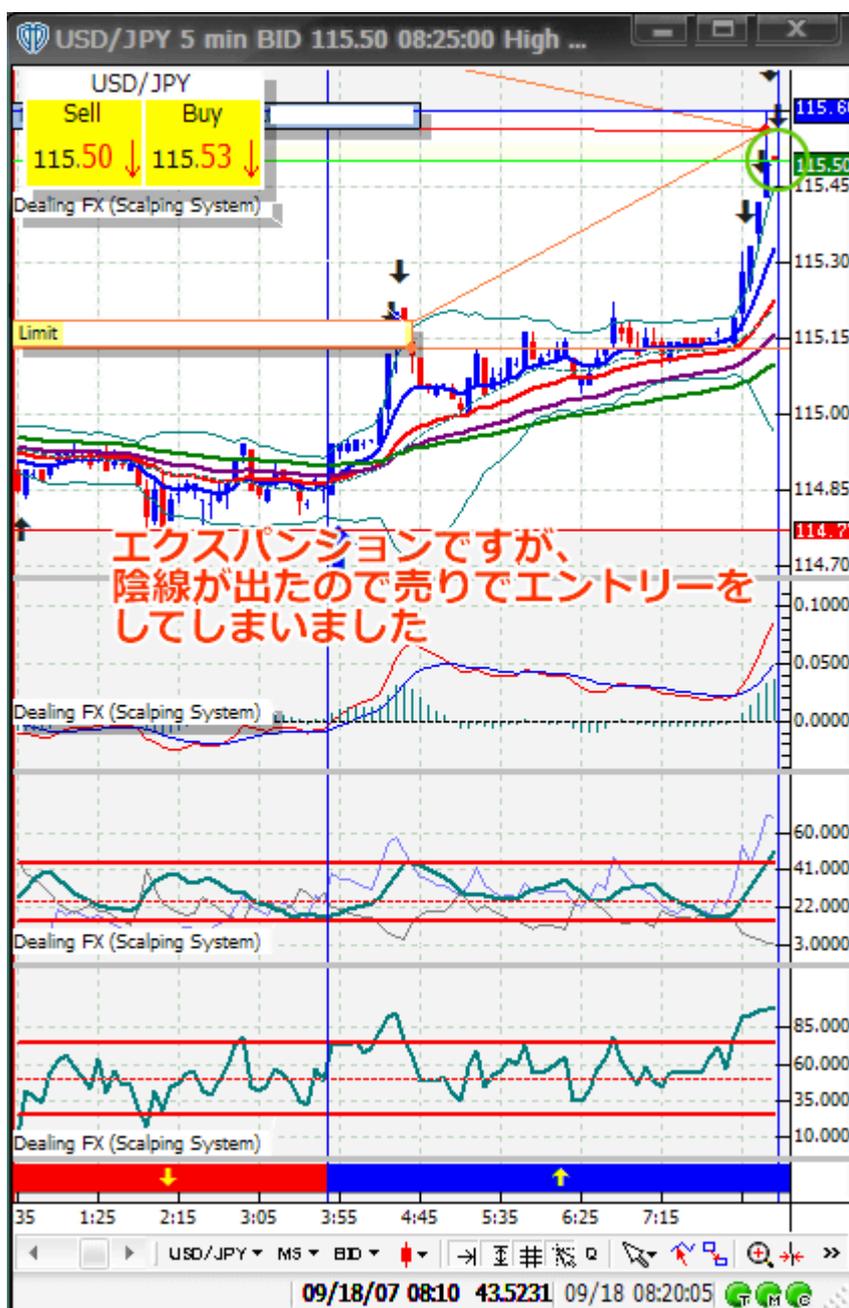
要点のまとめ

- ADXが下降中、ないし25%ラインよりも下回った状態を確認する
- ボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ のバンドとミドルバンドが水平状態を確認する
- RSIも補助的に組み合わせる

典型的なダマシ 「エクspansionなのか反転なのか」

時として、エクspansionが始まるのか、反転してくるのか判断が付きにくい場合があります。

例えば、短い時間足では、エクspansionが始まったように見えるけれども、大きな時間足を見ると、ADxは25%ラインよりも下回った状態で、トレンドは出ておらず、ボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ のバンドとミドルバンドも水平状態にある時に、現在のレートが $\pm 2\sigma$ を突き抜けてきている状態の時です。



上記の 5 分足チャートではエクспанションが始まりましたが、陰線が出てきたこともあって、焦って売りでエントリーをしてしまいました...

比較的長い時間足、ここでは 4 時間足を見てみました。くどいようですが、こちらのチャートでは、**ADX** は 25%以下で、ボリンジャーバンドも水平です。反転してきそうにも見えます。



ところが、この後 5 分足のチャートでは、一時的に EMA10 までレートが戻したこともありましたが、そのままレートが下降する勢いがなかったため、素早く手仕舞いしました。4 時間足のチャートでもさらに陽線が続き、リミットを待っていたら、ストップにかかってしまうところでした。

ここで重要なのは、比較的大きな時間足でボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ にレートが差し掛かったとしても、そこから反転を確認してからエントリーする事です。この比較的大きな時間足とは、少なくとも 30 分足での反転(ローソク足の逆線)を同時に確認するようにすれば、より信頼度が高まります。

要点のまとめ

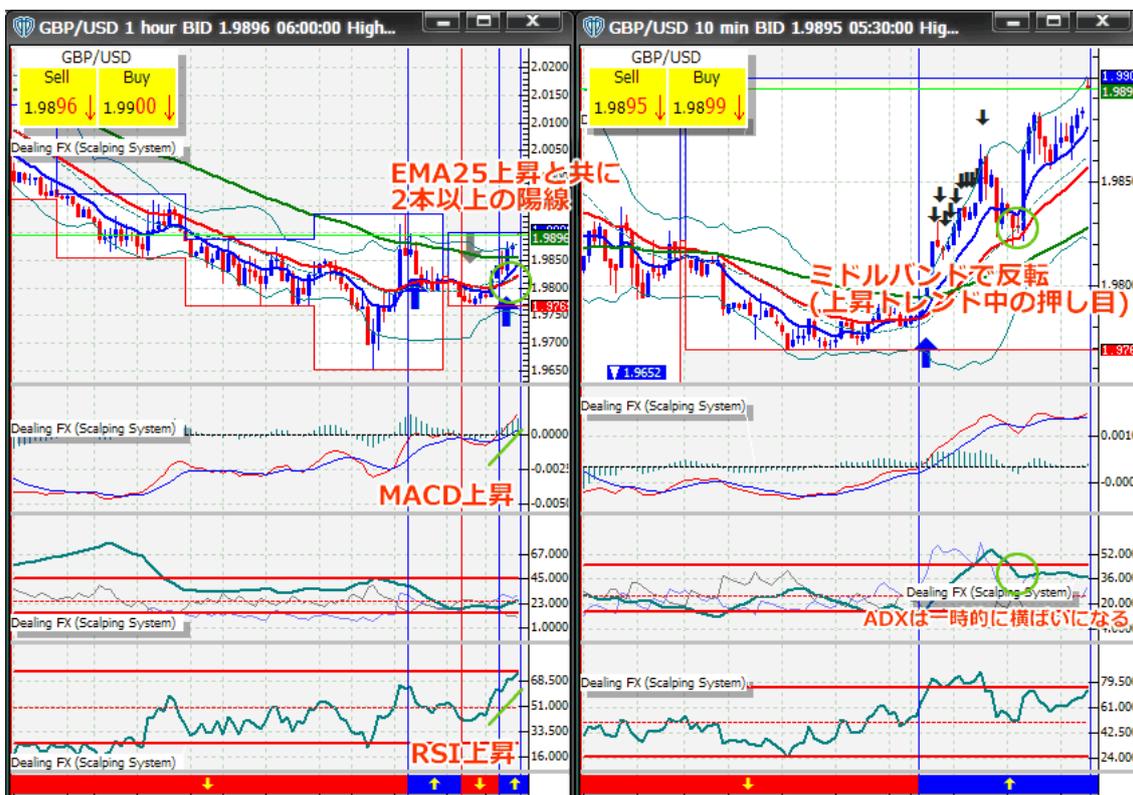
- 大きな時間足でもトレンドが出ていない事を確認する
- 大きな時間足で、反転してきているのを確認しておく

トレンド フォロー

大きな時間足で **ADX** が下降中、または **25%**ラインよりも下回ったノントレンドの状態であっても、ボリンジャーバンドのミドル バンドや **EMA25** が十分傾斜している場合、その方向にエントリーすることができます。

例えば、下記のチャートで 1 時間足と言った大きな時間足で、**EMA25** が、上(下)昇してきた場合は、主力の時間足でボリンジャーバンドのミドル バンドで、上手な押し目(戻り)を狙っていきます。言ってみれば、上(下)昇のトレンド中における逆張りとなります。

- 決済ポイントは、ボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ のタグ
- ロスカットポイントは、主力の時間足の方で **EMA45**~**EMA75** 付近



ブレイクアウトのダマシを拾って、順張りでトレンド方向にエントリーするポイントとして有効です。ブレイクアウトを追うよりも、タイト ストップを用いることができるため、リワード・リスクの観点からも安全です。

より詳細を見ていくと、大きな時間足の方では、**EMA25** よりも **MACD** と **RSI** の方が早い段階でトレンド方向に傾斜してきます。この2つが同方向にトレンドを示している場合は、**ADX** でトレンド状態が確認できなくても、エントリーすることが可能です。

と言うのは、主力の時間足では **ADX** が下降し、いったんトレンドが弱まったポイントが、押し目(戻り)のエントリー ポイントである場合があるためです。また、トレンドは緩やかではあるが、一方向に描いている場合、**ADX** の上昇を確認しているとエントリーする際の判断基準としては遅行してしまうためです。

主力の時間足でも **EMA25** やボリンジャーバンドのミドル バンドが強く傾斜している場合や、トレンドは緩やかではあるが、一方向に描いている場合、**EMA25** の向きとボリンジャーバンドのミドル バンドの傾く方向のみを見て、エントリーすることが可能です。

例えば、**MACD** がデッド クロス後で、**RSI** も下降中。しかしながら、**EMA25** の上昇角度もいったん弱まるものの、ボリンジャーバンドのミドル バンドで反発する傾向が高いわけです。

緩やかに上昇トレンドであれば、ボリンジャーバンドの $+2\sigma$ とミドルバンド辺りに挟まれながらも徐々にレートが上昇し、下降トレンドであれば、 -2σ とミドルバンド辺りに挟まれながらも、徐々にレートが下降します。

まとめると、

1. 大きな時間足で **MACD** と **RSI** の向きが同一方向に進んでいる
2. 主力の時間足で **EMA25** が強く傾斜、もしくは緩やかだが一方向に進んでいる
3. ボリンジャーバンドのミドル バンド辺りで押し目買い(戻り売り)

と言った手順になります。

1分足の戻り売りポイントのチャートも見てみましょう。

下記のチャートで言うと、バンドウォークとなりそうな場面ですが、10分足で強い陰線が出たのを機に、1分足でエントリーポイントを探ったものです。

この場合、1分足の **EMA10** で戻り売りポイントとして考えても、良い結果が得られる場合が多いです。



以上が、**EMA25** の傾く方向に押し目買い(戻り売り)を狙った、トレンド フォローの順張り手法となります。

要点のまとめ

- **ADX** がトレンドを示していなくても、**EMA25** が十分傾斜していればエントリー可能
- **EMA10~25** の押し目買い、戻り売りのポイントまでしっかりと待つ

典型的なダマシ「トレンド フォローからの反転」

主力の時間足でトレンド方向に押し目(戻り)のエントリーを考えようとしても、大きな時間足で、ADXが下降中、ないし 25%ラインよりも下回った状態のレンジ相場で、ボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ のバンドとミドル バンドが水平状態にある「反転」のシグナルとなっている場合、エントリーは見合わせる事になります。

下記のチャートで大きな時間足は、ボリンジャーバンドの -2σ で反転が確認できたため、主力の時間足でも陽線に変わった瞬間(反転)を捕らえられれば、買いのポジションを持つてもいいのですが、スプレッドを考慮するとリワード・リスクが、よくて 1:1 程度です。



この大きな時間足でボリンジャーバンドのミドル バンドあたりまで反転してきた後、再度トレンドを描いていく場合もありますが、 $\pm 2\sigma$ にレートが来ている場合、一時的な反転ポイントであることに注意してください。

要点のまとめ

- 大きな時間足でボリンジャーバンドの $\pm 2\sigma$ で反転してきていれば要注意

指標トレード

本書の手法において売買判断シグナルが全く機能しない局面があります。それは、重要な経済指標が発表された場合です。

1. 非農業部門雇用者数変化（毎月第1金曜日、雇用統計）
2. 政策金利
3. 貿易収支

以上の3つは非常に為替相場に大きな影響を及ぼす傾向があります。これらの経済指標は、全て「ひまわり証券株式会社 為替オン・ザ・ウェブ カレンダー(週間)」で確認できます。

ひまわり証券株式会社 為替オン・ザ・ウェブ カレンダー(週間)

<http://sec.himawari-group.co.jp/report/weeklycalendar/>

事前「予想」より、「結果」の数字がよければ、対象通貨が一時的に大きく揺れる場合があります。例えば、政策金利であれば、日銀が利上げを発表した場合は、ドル売り円買いに動き、据え置きの場合であればほとんど影響はない、と言った具合です。

毎日、たくさんの経済指標が発表されますが、特に日本時間の21時以降の指標には注意しておきましょう。全てが全て相場に影響を与えるわけではありませんし、影響が出てもすぐに戻ってくる場合も多いのですが、横目で注意するしかありません。

重要経済指標時にスキャルピングする場合、逆指値による順張りエントリーが有効です。

具体的には指標発表前の2、3分前に現在のレートから上下15pipsに逆指値注文を入れておく事で、ブレイクした方向に順張りでエントリーするわけです。エントリーしたら、もう一方の逆指値はキャンセルします。

うまくいけば、一気にトレンドに乗り、10~40pips狙える事がありますが、欲張らずに10~20pipsほど、もしくは指標発表から5分ほどでさっさと決済します。安全を取るならば、すぐにレートを戻す場合もあるため、あまり欲張らずに「腹八分で利食い」してしまう事です。



このテクニックの大きな注意点として、雇用統計や政策金利の重要な指標前の場合、それまでポジションを保有していたヘッジファンドがリスク回避のため、ポジションを一旦解消する場合があります。事前にレートが乱高下することがあります。

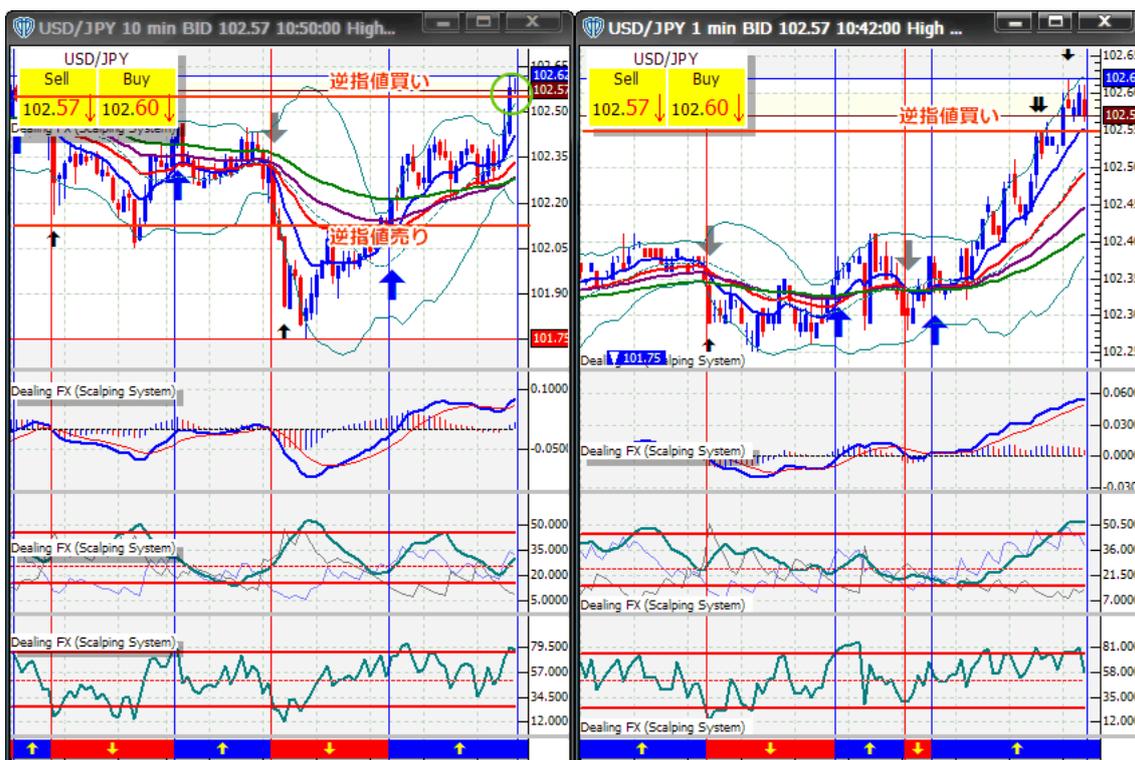
例えば、政策金利の前にあらかじめ上下に逆指値をセットしておいたが、指標発表前にもかかわらず、レートが急騰して買いポジションを持つことになった。しかし、その後、レートは急落してしまった。



※指標発表前の逆指値ダマシ。

あまりに乱高下が激しいため、あらかじめセットしておいた逆指値は約定したが、その後の指標発表で大きな損失を被る事になってしまう事も想定しておかなければなりません。

この損失を最小限に食い止めるために、事前に逆指値注文をすると同時にロスカット注文もしておく事です。具体的には逆指値注文から 10pips 程度にセットします。こうしておく事で、最悪ロスカットされたとしても、その後逆にレートが動いたことで、反対ポジションを持ち、そのままトレンドに追従することができます。



※指標発表後、既に天井。

もうひとつ注意点があります。指標発表後、うまく逆指値が約定しても、そのまま大きくレートが動かない状況、ないし反転してくるケースです。

つまり、買いで約定した時には既に天井、売りで約定した時には既に底の場合です。一時的にレンジ相場になる傾向がありますが、この時よくて 1pips でも取れたら、即決済を心がけます。

以上の注文方法が難しい場合は、経済指標が発表されてから、レートが進む方向に成り行きでエントリーするのもいいでしょう。ただし、注目度の高い指標や、突然レートが動き出した場合は、スリッページが起きたり、約定しない場合もあります。

逆説的にはなりますが、最も安全なのは、このような重要経済指標が発表される時間の前には、全てのポジションをクローズする事です。

8. 売買判断シグナル「スイング」

日中は仕事や学業で忙しい方、趣味に没頭していたい方は、1日、朝と晩の2回チャートを見るだけでもいいように比較的長い時間足、ここでは4時間足を使用します。ロジックは、

- EMA5 が EMA10 を上抜け
- RSI(9) の水準が 50%を上抜け
- MACD(12,26,9)がシグナルを上抜け

の3つが合致したところで買いシグナルを出します。売りはその逆となります。複数のテクニカル指標を組み合わせているので、サインとしてはかなり強力です。



基本は青色の矢印のシグナルが出た時点で、「買」エントリー、グレーの矢印のシグナルで「売」決済に従い、スローストキャスティクス(42,3,3)を補助的に使うわけです。

ストキャスティクスをフィルターにした売買判断の仕方は、以下の通りです。

- ストキャスティクス 20%(青太線)を反転した直後のシグナルは、**強気買い**。
- ストキャスティクス 20%~55%(青太線~青点線)内のシグナルは、**買い**。
- ストキャスティクス 55%~80%(青点線~グレー点線)内のシグナルは、**買い控え**。
- ストキャスティクス 80%~95%(グレー点線~赤太線)内のシグナルは、**買い禁止**。

※売りのこの逆。



また、買いでエントリーする場合でも、含み損が少々出る傾向がある場合は、シグナルを確認した後、10pips 下に指値注文を置いて、相場のブレに拾ってもらう方法も有効です。

エントリー後、**ロスカット ポイントは 100pips 下に入れます**。スイングですと、**ロスカット ポイントが大きくなります**ので、**過大なポジションは絶対に取らないように注意**して下さい。



決済は、基本的に反対のシグナルが出た時点ですが、買い控えのところでエントリーした場合は、MACD のデッド クロスで決済してしまいます。ほったらかしにしておきたい場合は、決済ポイントも 50~100pips 上においても構いません。50pips 以上利益が乗ってきたら、一つ前のローソク足の始値の位置までロスカット ポイントをじわじわと上げていきます。

また、逆張りの売買シグナルとして、

- ADX が 40%以上で、MDI を上抜けした時点で、買い
- ADX が 40%以上で、PDI を上抜けした時点で、売り

とした、黒色の小さな矢印が表示されます。通常は、今現在持っているポジションを早めに決済したい場合に有効です。

上下にリミット、及びロスカット ポイント(OCO 注文)を入れておくことで、レンジ相場ではどちらにも引っかからず、重要な経済指標がない限りは、おおよそシグナルの方向にレートが動いていく確率が高いです。

以上がスイングの手法となります。このような「簡単」シグナルに従うだけでも、大きく勝てる時は、一気に利益を上げられます。何より、シグナルを確認する時間も激減するため、「楽」です。

このシステムの最大の弱点は、シグナルが点いたり消えたりと、エントリーしていいのか全く分からない場合があるという事です。

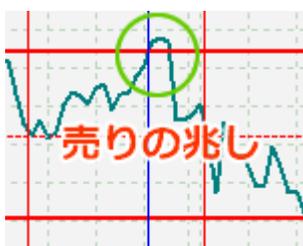
例えば、シグナルに従ってエントリーしたら、含み損のまま、決済シグナルが出てしまい、訳も分からずロスカット。次もロスカット、そのまた次も…。こうなってしまうとシグナルそのものはまったく信用できません。かと思いきや、シグナルを無視していたら、ものすごい上昇して悔しい思いをしてしまった。などです。

基本的にシステムトレードですと、勝敗にこだわらずシステムに絶対従わなければならないのが基本ですが、どうしても負けが続くと、システムに対して自身の腹が決まらず、ルールを破った裁量トレードになってしまいます。私も最初そうでした。こうなってしまった時の対処法としては、最終的にほかのテクニカルを参考に判断しなければならなくなってきました。

参考として、

- スロー ストキャスティクス、RSI の過熱感で判断する
- **EMA75** の下に出ている(トレンドに逆らった)買いサインは無視
- 1時間足でトレンドを確認し 10分足の短い時間足で RSI を基に逆張り

が有効と判断します。



買いサインは点灯しているが、ストキャスティクスや RSI が上方に張り付いていれば、エントリーを控えるべきです。むしろ 75% のラインを一度越えた後、割ってきたところで、売りのサインの兆しとして判断します。



EMA75 のラインを直近でローソク足が行ったり来たりしている場合のサインも疑ってかからなければなりません。しかしストキャスティクスや RSI が 25%ラインを上を反転してきたときは、すかさず買いです。

また、たいてい 4 時間足のシグナルが点いたり消えたりしている場合と言うのは、レンジ相場を成している場合です。

まず 1時間足に変更して、EMA75 を基にトレンドを描いているかどうかを確認します。

続いて 10分足に変更し、なるべく現在のレートが下がった(テクニカルでいえば、RSI が25%のラインに入った)ところでエントリーします。こうすることで、レンジ相場に負けることなく、エントリーできると判断します。

慎重になればなるほど、どうしても裁量が入ってしまうのはやはり否めません。ただ、チャートに祈ることなく、氷の目で見てエントリーするのか、しないのかを自身でルール化してしまう事が大事です。ストキャスティクスが上方でパンパンだから、エントリーしない。私の場合はそういうルールに基づきます。たとえその後、レートが上げても、間違えて反対のポジションを持っていたら、どうなっていたことだろうと思えば、手を出さなかったことは、自身のルールに従ったのでそれはそれで正解と思えるようになりました。また、たとえエントリーできていたとしても、もっと利益が乗ってくれればと思い適切なところで決済をする判断もつかなくなってきました。

最初はどうしても「エントリーしておけばよかった」と強く思いましたが、根拠なく下手にポジションを取ると損失が膨らみ、根拠ないところでロスカットをします。ロスカット直後、レートは上げます。

と、残念ながらこう言うパターンのみ頭に焼きついています。

このような感情を一切省けるように改善していく姿勢が重要になってきます。

9. 心理管理

個人投資家の多くは「プロはこんなシンプルな手法など使っているのではなく、いくつもの難しいテクニカル指標を駆使して、素人じゃ到底発見することすらできない手法で売買を仕掛けているに違いない」と、勝手に思い込んでいるに過ぎない場合が多いものです。

またどんな手法には必ず負けも存在する事を認めなければ進歩はありません。負けを認める事は、私もそうですが、本当に悔しくて、時として大損した場合には、その時点でマーケットから退場してしまうか、ポジションを取るのが怖くて、いつもビクビクしなくてはいけなくなってしまうのです。

こうなると、そもそも健康でいられなくなってしまう、利益を得るところか生活そのものを奪われる可能性すらあるのです。こうなってくると、一体全体何のための投資なのかすら判断がつかなくなってきました。

ではどうすればいいのか？

必ず負ける事はある。負けは負け。と潔く認める事。負けは利益を大きく上げるためのプロセスでしかないのです。小さな負けを認め、大きく利益を伸ばすことにつなげます。絶対に負けたくない。私もそうです。しかし、はっきり言って負けを認めない人は、稼ぐことすらできません。勝率にこだわる人は、損切りを極度に嫌います。結果的に多大な損失を出してしまう場合がほとんどです。絶対に負けたくないという人はそもそも投資などしない方がいいのです。その方がずっと安全で健康です。

どうしてシグナルが出たのにもかかわらず負けてしまうのだろう...と、今まで頭を悩ませていた方が意外と多いかと思います。それでやっぱり駄目だと思い、別の手法を模索する。模索し続ける間は、資金は減っていく一方です。

それよりも一つの手法を何度も何度も自分で検証しないことには、いくら有効な手法があったとしても、使いこなせずに終わってしまいます。検証に検証を重ねると、おのずと自分の確立してくるトレード手法や、なかなか口頭で説明するのが難しいような「相場観」と言ったものまで身に付いてくるものがあります。

シンプルに考え、損小利大と言う事が古くから言われています。これも誰もが聞いたことのある格言だと思いますが、あまりに聞きなれているがゆえにこれも軽視どころか、ほとんど全く無視してしまっている人が多いのです。

人間欲があります。しかしこの欲張る感情がトレードに対して全面に出してしまうと、結果的にルールを無視した、波乱のトレードとなって損失と同時にストレスを貯める事になります。例えば、しっかりとルールに沿って利益が出たトレードにもかかわらず、「ああ〜あここで売ることができてたらなあ」であったり、負けが続くと、「損失分を取り返さなくては!」と、逆に勝ちが続くと「取引単位を倍にしよう!」と、感情が往々にして入り、取引単位を倍にしたりしてしまいがちです。

こういう感情が出てしまうと、結果的にその場その場の値動きに対してのルールをあれこれ付け加え、裁量トレードの域を超え、感情トレードをしがちです。

感情と言うのは、誰しも人間である以上、当然出るものです。出すなど言う方が無理があるかと思いますが、トレードに感情を持ち込まずに、機械的にする事が大事です。この辺の心理管理はトレードを続けると言う事で、その度鍛えるしかありません。

私ももちろん同じような感情に駆られたことは過去に何度も経験しています。FXを始めた当初は、損小利大を実現していたので楽勝と思っているや否や負けが膨らんできました。そうすると「取り返さねば」という感情が先走り、下がり続けるレートに対してナンピンをしたり、損切りをためらい、そろそろ上がるだろうと持ちこたえてしまって、しまいにはマージンコールで退場をした経験がございます。

「機械的にトレードする」と一言で言っても、これが一番難しいことでもあります。この感情面においては、なかなか文章では伝わりにくいところがあるかと思いますが、ルールにのっとり利益確定、損切りと機械的にトレードすることが大事で、私も勝てるようになるのには、半年ほどチャートを毎日見ては、思い立ったものは10分足チャートや1分足チャートのコピーを保存し、ここでエントリーできればよかったなというポイントは、机に置いてあるノートにどンドンポイントを書き込んだりするようにして日々の反省点を記しています。最終的には諦めたくないという強い意志をもって、前向きにチャートに取り組む姿勢が大事になってきます。

10. 資金管理

エントリーした後、思惑通りにレートが動かない場合も考慮し、必ず直後にロスカット(ストップ)ポイントを置きます。ロスカットの種類はいくつかありますが、最もポピュラーで簡単、お勧めできるものに、**金額ベースのストップ**があります。

このストップを使う場合**トレーダー各自が用意する投資資金の2%以内**とします。

例えば、投資資金を10万円用意した場合、USD/JPYで1回のトレードでの許容損失額は、-2,000円(-20pips)となります。ただし、ポンドがらみの通貨の場合は値動きが激しく、すぐにストップにかかってしまいますので、4%以内とします。この時、ポンド円を例にとると、-4,000円(-40pips)までが許容損失額となります。(スプレッド含まず)

ロスカットをなかなか認めることが出来ずに、損失に猶予を与えてしまうパニックを防ぐためにも、最も簡単なロスカット値の目安とし、エントリー直後に機械的にロスカットポイントをセットすることを強くお勧めします。適切なエントリーポイントであれば、おおよそこの範囲内のロスカットポイントで大丈夫な場合が多いです。

次に、**自己裁量の心理的ストップ**があります。

こちらは、エントリー後、思惑通りにレートが動かないどころか、そのまま逆にレートが走った場合、**通貨にかかわらず、一律15~20pipsと言った最小限のロスカット**を断行します。

この場合、急激なファンダメンタル的な要因があったか、エントリーポイント自体が間違っていた可能性が強いなど、要因は様々ですが、金額ベースのストップより、更に損切りを厳しくします。

ここまでロスカットを厳しくすると、勝率は下がります。時としてロスカットばかりになり、直後すぐレートが反転して、利益を得られたということもあります。

こうなると、嫌気がさしてくることもありますが、逆に少なからず大きな損失を被る可能性を回避できたと考えるべきで、正しい負けです。

負け続けてしまう投資家の一つの共通点として、無茶苦茶な資金管理をしていると言うのが代表的な例です。

ポジション サイジングともいい、自分が用意する資金に対して、どの程度のポジション、1万通貨か10万通貨で取引するのか、がとれるのかと言う事です。

具体的には、**資金10万円でトレードする場合、スキャルピングであれば、最大3万通貨まで。デイトレ、スイングであれば、1万通貨まで**を目安にしてください。

レバレッジ云々よりも、余裕資金で投資をすると言う資金管理をしっかりすることが大事です。例えばレバレッジ50倍だからなんか怖そうではなく、少ない証拠金で始められると言う点では安全なわけです。それよりも証拠金10万円しか用意できないのに10万通貨で取引を行う様な、ポジション サイジングをするべきではありません。

資金がなくなると、あっという間にマーケットから退場です。たとえ次に大きな利益を上げられるような場面に出くわしたとしても、資金を全て失ってしまうと、誰も何もできません。

理論的には、複利で倍々にして稼ぐと言う事も考えられますが、それはどんな場合においても勝ち続けると言う一定の保証があってできる事です。しかしマーケットは、どちらに動くか確固たる保証はありません。つまり負ける時は、倍々にして負け、損失が膨らむのがオチです。一度決めた取引単位、ポジション サイジングは絶対に変えないことです。

と言うのも私が、まだFXを始めたばかりの時、とあるシステムトレードをしていたのですが、損失が出た時に限って、取引単位を3倍にして元を取り返そうとしたころ、あっという間に資金不足によるマージンコールにかかってしまい、一夜にして投資資金の9割をすっ飛ばした経緯があるからです。ですからこのポジション サイジングについての重要性は何度も言います。

これさえしっかり身につければ、マーケットから即刻退場と言う最悪の事態はかなりの確率で防ぐことができるのです。

ただ、リアルトレードが初めての人はいくら資金が用意できたとしても、数か月は最小取引単位でトレードしてみて、結果その間どれくらいの損益があったのかを把握することが大事です。

デモトレードで何度もそれは体験してきたと言う人でも、実際の自分の資金がマーケットによってうごめく世界ですと、最初はどうしても感情が入りがちです。

ですから、最終的に「自信を持って勝てるトレード」が出来るようになった段階で初めて、レバレッジを少し上げて、勝ち逃げとするのも有効ですが、最初は、この手法がどこで大きく稼げ、逆にどこで負けてしまうのかと言う、様子を見ると言った感覚で始める事をお勧めします。

繰り返し言いますが、このポジションサイジングさえ間違わなければ、どんなに初心者でも大損すると言う最悪の事態は防ぐことができ、検証を繰り返すことで再度マーケットに参戦できるのです。

11.最後に

今回の手法は、いろいろな手法を試した結果、最終的に私がたどりついた手法ですが、これから FX を始める方や今までどうにもこうにも稼ぐことが出来なかった人に、資産運用の手助けとして役立てればと思い執筆しました。

手法そのものは非常にシンプルなものですが、しかし、こんなにシンプルな手法をここまで、うまく使いこなせずに、もっといい手法があるはずだと、今まで迷宮入りしてはいなかったでしょうか。

今後とも、購入者の皆様からのご意見、ご感想、フィードバックをお受けし、随時無償バージョンアップに努めさせていただきます。

メール サポートの方では、東京市場や為替相場が休みの土日祝日を除き、極力迅速に対応するよう心掛けておりますが、未来の相場動向におけるご質問は、お控えいただくようお願いいたします。

発行：Dealing FX

e-mail：dealingfxjp@yahoo.co.jp